



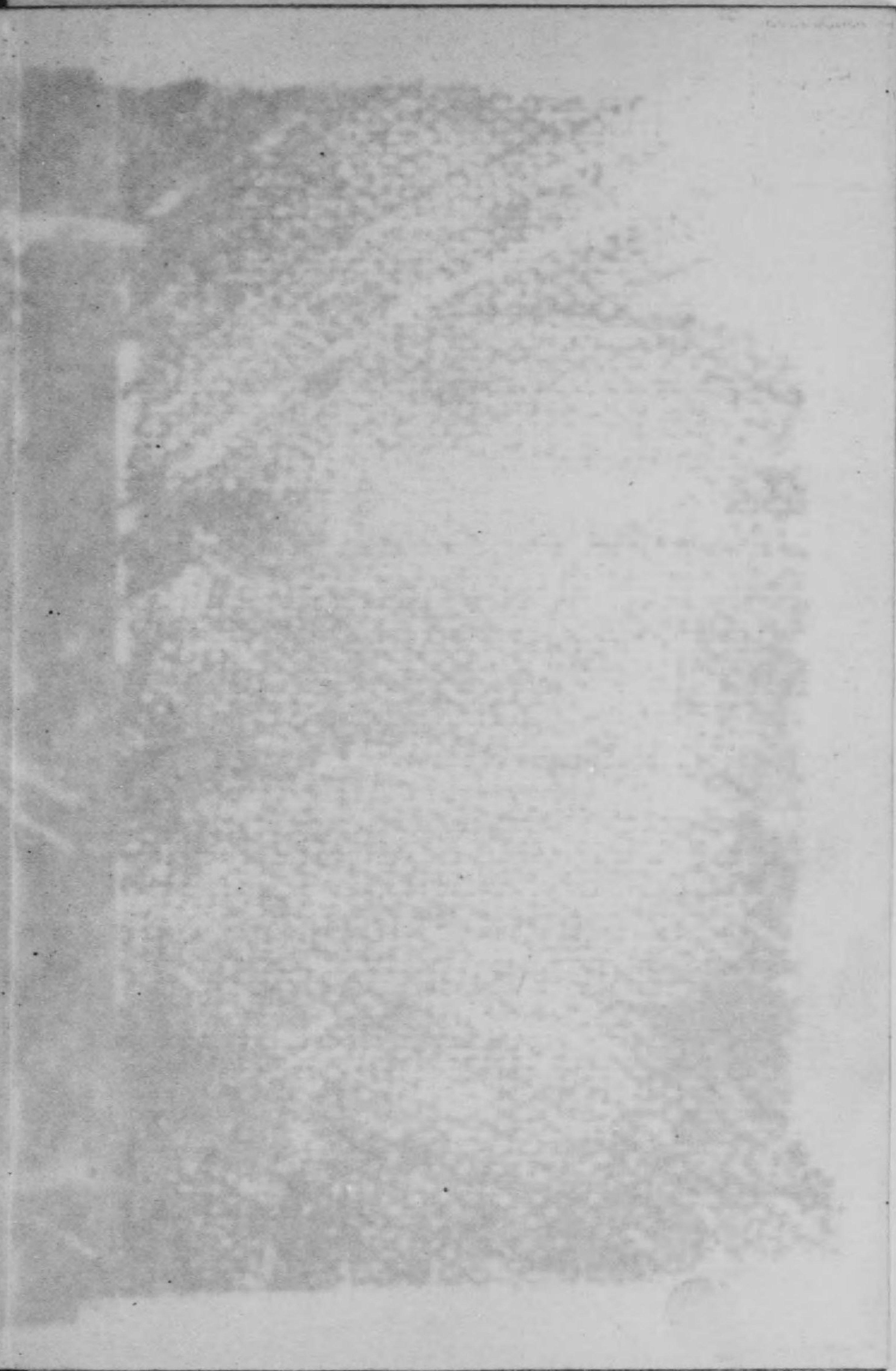
始



大正十二年
度事業報告

14.21

28/1



大正十二年度事業報告

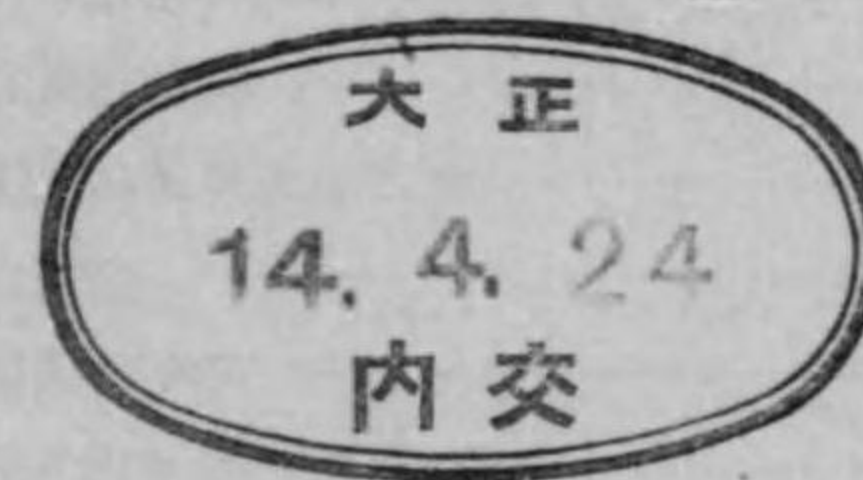
新潟縣農事試驗場



本報告ハ當場ニ於テ施行セル
大正十一年度冬作及大正十二
年度夏作試験成績並ニ其他ノ
事業ヲ記載シタルモノナリ

大正十三年九月

新潟縣農事試験場



1424-28/11

大正十二年度事業報告目次

種 藝 部

水 稻 ノ 部.....	1
第 一 豊凶考照試験.....	1
第 二 品種對施肥量試驗.....	1
第 三 肥料種類配合法試驗.....	2
第 四 米糠施用法試驗.....	2
第 五 磷酸質肥料種類試驗.....	3
第 六 新肥料ニ關スル試驗.....	3
第 七 無肥料栽培.....	3
第 八 苗代種類試驗.....	3
第 九 苗代追肥期試驗.....	3
第 十 苗ニ含有スル四要素調査.....	4
第 十一 播種期播種量移植期對施肥量試驗.....	4
第 十二 除草回数試驗.....	4
第 十三 施肥量ト移植法トノ關係試驗.....	4
第 十四 波狀栽培試驗.....	5
第 十五 出來過地栽培法試驗.....	5
第 十六 直播對株數苗數試驗.....	5
第 十七 直播法試驗.....	6
第 十八 陸稻ノ水田栽培實驗.....	6
第 十九 整地法試驗.....	6
第 二十 粳米精白歩合調査.....	6
第 廿一 粳乾燥法ト割米トノ關係試驗.....	7
第 廿二 生育調査.....	7
第 廿三 品種比較本試驗.....	7
第 廿四 品種比較豫備試驗.....	8
第 廿五 御大典記念出品稻比較試驗.....	8
第 廿六 純系淘汰試驗.....	8
第 廿七 系統集團淘汰試驗.....	9
第 廿八 自然雜種ニ依ル品種育成試驗.....	10
第 廿九 人為雜種ニ依ル品種育成試驗.....	10
第三十 獎勵原種ノ一穗粒數調査.....	10
陸 稻 ノ 部.....	11

- 第一 覆土試驗.....11
- 第二 畦ノ構造ト土入試驗.....11
- 第三 水稻獎勵原種ノ畑地栽培試驗.....11
- 第四 品種比較試驗.....12
- 第五 純系淘汰試驗.....12
- 大豆ノ部.....12
 - 第一 移植期試驗.....12
 - 第二 株間廣狹ト施肥量試驗.....13
 - 第三 收穫期試驗.....13
 - 第四 品種比較試驗.....13
 - 第五 純系淘汰試驗.....14
- 大麥ノ部.....15
 - 第一 麥豐凶考照試驗.....15
 - 第二 栽培法試驗.....15
 - 第三 品種ト施肥トノ關係試驗.....15
 - 第四 追肥期試驗.....16
 - 第五 燐酸加里極量試驗.....16
 - 第六 麥生育調査.....16
 - 第七 品種比較本試驗.....17
 - 第八 品種比較豫備試驗.....17
 - 第九 系統集團淘汰試驗.....17
 - 第十 純系淘汰試驗.....17
 - 第十一 人為雜種ニ依ル品種育成試驗.....18
- 小麥ノ部.....18
 - 第一 品種對施肥量試驗.....18
 - 第二 品種比較試驗.....18
 - 第三 系統集團淘汰試驗.....19
- 農具ノ部.....19
- 氣象觀測ノ部.....20
- 粃貯藏試驗ノ部.....20
 - 第一 今摺米改良試驗.....20
 - 第二 粃「セイロ」貯藏試驗.....20
- 委托試驗ノ部.....20
 - 第一 米麥品種適否試驗.....20
 - 第二 綠肥委托試驗.....20
- 原種圃ノ部.....22

- 第一 水稻原種圃.....22
- 第二 陸稻原種圃.....23
- 第三 麥原種圃.....23
- 第四 大豆原種圃.....23
- 第五 甘藷原種圃.....24
- 第六 馬鈴薯原種圃.....24
- 採種圃ノ部.....24
 - 第一 米採種圃.....24
 - 第二 麥採種圃.....26
 - 第三 大豆、甘藷、馬鈴薯採種圃.....27

園藝部

- 果樹ノ部.....29
 - 第一 和梨品種試驗.....29
 - 第二 和梨肥料試驗.....29
 - 第三 和梨施肥期試驗.....29
 - 第四 和洋梨整枝剪定法試驗.....29
 - 第五 洋梨品種試驗.....30
 - 第六 米國種葡萄品種試驗.....30
 - 第七 歐洲種葡萄品種試驗.....30
 - 第八 歐洲及米國種葡萄免疫性砧木試驗.....31
 - 第九 甲州葡萄整枝法試驗.....31
 - 第十 柑柿品種試驗.....31
 - 第十一 荔枝品種試驗.....32
 - 第十二 桃品種試驗.....32
 - 第十三 梨品種試驗.....32
 - 第十四 苹果品種試驗.....32
 - 第十五 苹果整枝試驗.....32
 - 第十六 櫻桃品種試驗.....33
- 蔬菜ノ部.....33
 - 第一 茄子品種比較試驗.....33
 - 第二 茄子鹽素剝乾效果試驗.....33
 - 第三 西瓜移植法試驗.....34
 - 第四 甘藷純系淘汰試驗.....35
 - 第五 甘藷品種對貯藏試驗.....35
 - 第六 甘藷耕種法試驗.....36
 - 第七 甘藷品種比較試驗.....37

- 第八 馬鈴薯增收法試驗.....38
- 第九 馬鈴薯貯藏法試驗.....38
- 第十 葉莖菜類貯藏法試驗.....39
- 第十一 里芋品種比較試驗.....40
- 第十二 蘿蔔品種比較試驗.....41
- 第十三 白菜品種比較試驗.....41
- 第十四 南瓜落葉防止法試驗.....42

農藝化學部

- 木框試驗ノ部.....45
 - 第一 天然供給量試驗.....45
 - 第二 有機質肥料ノ地力ニ及ボス影響試驗.....45
- 土管試驗ノ部.....46
 - 第一 水稻ニ對スル主要窒素質及磷酸質肥料ノ吸收率檢定試驗.....46
 - 第二 窒素對磷酸及加里ノ比率試驗.....4
- 圓筒試驗ノ部.....47
 - 第一 磷酸鹽ノ形態試驗.....47
 - 第二 磷酸鹽ノ肥効上鐵及礬土ノ影響試驗.....47
 - 第三 施肥標準調査三要素試驗.....47
- 施肥標準調査ノ部.....47
 - 第一 實地調査.....47
 - 第二 依託試驗.....47
- 分析ノ部.....48
 - 第一 依賴及場用分析.....48
 - 第二 施肥標準調査用土質分析.....48

病虫部

- 試驗ノ部.....49
 - 第一 稻熱病品種關係試驗.....49
 - 第二 大麥斑葉病品種トノ關係試驗.....49
 - 第三 石灰硫黃合劑土壤消毒法試驗.....49
 - 第四 野鼠毒劑驅除試驗.....49
 - 第五 コクゾール煙蒸試驗.....50
 - 第六 銅石鹼液效果試驗.....51
- 調査ノ部.....51
 - 第一 梨粉介殼虫.....51

- 委託試驗ノ部.....51
 - 第一 梨害虫驅除試驗.....51
 - 第二 葡萄病預防試驗.....52
 - 第三 茶葉捲虫驅除試驗.....52
 - 第四 胡蘿蔔斑點病預防試驗.....52
 - 第五 ユリミ、ズ驅除試驗.....52
- 野鼠室扶斯菌配布ノ部.....53

農業技術員養成部

- 第一 農業技術員養成.....55

庶務部

- 第一 出張ニ關スル事項.....57
- 第二 印刷物發刊ニ關スル事項.....57
- 第三 文書取扱件數.....57
- 第四 參觀人員.....57

佐渡分場

- 試驗ノ部.....59
- 田ノ部.....59
 - 第一 二毛作跡作水稻品種試驗.....59
 - 第二 紫雲英施用期試驗.....59
 - 第三 越前系統試驗.....59
 - 第四 春秋耕起試驗.....60
 - 第五 肥料割増試驗.....60
 - 第六 播種期播種量對移植期試驗.....60
 - 第七 水稻品種試驗.....60
 - 第八 除草回數試驗.....61
 - 第九 深淺耕起對肥料割増試驗.....61
 - 第十 豊凶考照試驗.....61
- 畑之部.....61
 - 第一 蕎麥品種比較試驗.....61

種 藝 部



水稻之部

第一 豐凶考照試驗 (繼續第廿九年)

本試驗ハ連年同一品種ヲ同一田地ニ當場一般耕種方法ニヨリ栽培シ其年ノ豐凶ヲ豫想スルト同時ニ監督官廳及主務省ニ報告スルノ基礎ヲ得ルニアリテ各期ニ其生育狀況ヲ調査シ其都度之ヲ報告發表セリ、今本年度収量ト平年ノ収量トヲ比較對照スレバ次ノ如ク平年ニ比シ早稻、中稻、晚稻三種平均ニ於テ一割強ノ減収ヲ得タリ

品 種	大 正 十 二 年		平 年		比 較 増 減	
	收 量	一升重量	收 量	一升重量	收 量	一升重量
早稻三種平均	2.393	366	2.789	365	△ .396	△ 1
中稻三種平均	2.539	365	2.854	365	△ .315	—
晚稻三種平均	2.732	365	2.880	368	△ .148	△ 3

備考 △ 印ハ減

第二 品種對施肥量試驗 (繼續第三年)

本試驗ハ當場ニ於テ試驗ノ結果有望ト認メタル品種ノ耐肥力ヲ試驗セントスルモノニシテ下記十九品種ニツキ試驗セリ

本年度ニ於ケル成績ニヨレバ石白二號、銀坊主ハ普通肥料、龜ノ尾一號新高、米光、在來愛國、越中坊主一號、新二本ハ三割増肥料、新大場、新岩、新一本、水野錦、畿内早生三十九號、改良愛國、刈羽神種、新愛國、畿内早生七十三號、新石白、ハ張糯ハ六割増肥料區最多収量ヲ舉ゲタリ、尙ホ試驗ノ完結セル品種ノ累年(三ヶ年平均)成績ヲ舉グレバ次ノ如シ

品 種 名	三割減肥料	普通肥料	三割増肥料	六割増肥料
龜ノ尾一號	2.654	2.736	2.944	2.852
新高	2.577	2.739	2.711	2.909
新大場	2.704	2.811	3.004	3.039
新一本	2.682	2.584	2.865	2.906
水野錦	2.764	2.669	2.772	2.973
畿内早生三九號	2.439	2.560	2.596	2.649
米光	2.854	2.733	3.031	3.002
刈羽神種	2.980	2.824	3.118	3.107
新愛國	2.788	2.779	2.931	3.052

在 來 愛 國	石 2.913	石 2.581	石 3.020	石 3.050
越 中 坊 主 一 號	2.843	2.824	3.081	3.091
畿 内 早 生 七 三 號	2.744	2.681	2.781	2.695
新 石 白	2.784	2.886	2.793	2.591
新 二 本	2.724	2.726	2.808	2.689

備考 普通肥料トハ反當堆肥百五十貫、大豆粕十二貫、蒸製骨粉三貫、強過磷酸石灰一貫八百匁、石灰十二貫、人尿六十貫ニシテ以下各試驗共之ニ同シ

第 三 肥料種類配合法試驗 (繼續第三年)

本試驗ハ肥料ノ種類ト配合法ヲ異ニスル場合ニ於ケル収量ヲ見ントスルニアリテ反當窒素三貫匁、強過磷酸加里各二貫五百匁トシ堆肥百五十貫匁ヲ基本肥料トシテ不足成分ハ各供試肥料ヲ以テ配合シ左記區別ニヨリ試驗シタル本年度及累年成績次ノ如シ

區名	試 驗 別	大 正 十 年	大 正 十 一 年	大 正 十 二 年	平 均
1	大 豆 粕 區	石 2.838	石 2.956	石 2.600	石 2.798
2	大 豆 粕、米 糠 區	2.780	3.734	2.483	2.666
3	大 豆 粕、種 粕 區	2.762	2.868	2.643	2.758
4	大 豆 粕、鯨 粕 區	2.962	2.991	2.579	2.844
5	大 豆 粕、硫 安、米 糠 區	3.208	2.923	2.524	2.885
6	石 灰 窒 素 區	3.041	2.898	2.775	2.905

第 四 米糠施用法試驗 (繼續第三年)

本試驗ハ本縣ニ於テ稻作肥料トシテ施用量多キ米糠ノ適當ナル施用法ヲ知ラントスルニアリテ反當米糠廿五貫匁ヲ其儘施用シタルモノ、施用前二週間堆肥ト混合シタルモノ、乾土ト混ジ置キタルモノ、人尿尿ト混ジ置キタルモノ、四區ヲ設ケ試驗シタル本年度ノ成績及累年成績次ノ如シ

區名	試 驗 別	大 正 十 年	大 正 十 一 年	大 正 十 二 年	平 均
1	標 準 區	石 2.570	石 2.460	石 2.173	石 2.401
2	堆 肥 混 合 區	2.542	2.549	2.175	2.422
3	乾 土 混 合 區	2.526	2.414	2.296	2.412
4	人 尿 尿 混 合 區	2.334	2.376	2.097	2.269

第 五 磷酸質肥料種類試驗 (繼續第三年)

本試驗ハ磷酸質新肥料ニツキ其肥効ヲ知ラントスルニアリテ磷酸アルミナ、イフオース、強過磷酸石灰(標準)ノ三種ニツキ試驗シタルニ磷酸アルミナト強過磷酸石灰トハ極メテ僅カノ差異ヲ示セルニ過ギズ、又イフオースハ鼠害ノタメ正能ナル成績ヲ擧ゲ得ザリシヲ以テ更ニ繼續試驗セントス

第 六 新肥料ニ關スル試驗 (新 設)

最近新肥料(間接肥料ヲ含ム)ノ販賣セラル、ヲ以テ此等ノ肥効ヲ知ラントスルニアリテ本年度ニ於テハ促肥素倍作即滿俺石灰ノ二種ニツキ試驗シタルニ未ダ的確ナル成績ヲ得ザルヲ以テ尙ホ更ニ繼續試驗セントス

第 七 無肥料栽培試驗 (繼續第十二年)

本試驗ハ無肥料栽培ニ於ケル収量ヲ見ントスルニアリテ本年度ノ成績ハ一石四斗五合ノ収量ヲ得タリ、尙ホ繼續施行セントス

第 八 苗代種類試驗 (繼續第三年)

本試驗ハ陸苗及水苗トノ優劣ヲ比較セントスルニアリテ改良愛國、改良美濃坊主、新愛國ノ三品種ヲ用ヒ六月一日植及六月十日植ノ二區ヲ設ケ一坪四十八株一株四本植トシ都合十二區ニ付試驗シタルニ本年度ノ成績ハ六月一日植ハ水苗ノ方収量多キモ各品種共六月十日植ハ陸苗ノ方収量多シ尙ホ試驗ヲ繼續シ確定セントス

第 九 苗代追肥期試驗 (繼續第三年)

本試驗ハ苗代ニ對シ追肥ノ時期ト苗ノ生育狀況並ニ本田ニ於ケル収量ヲモ併セテ調査セントスルニアリテ追肥ノ時期ニヨリ移植當時ノ苗ノ狀況ニ著シキ差ヲ認メザリキ、本年度並ニ累年反當収量ヲ擧グレバ次ノ如シ

試 驗 別	大 正 十 年	大 正 十 一 年	大 正 十 二 年	三 ヶ 年 平 均
五 月 十 日 追 肥	石 3.259	石 3.207	石 2.670	石 3.012
全 二 十 日 追 肥	3.102	3.181	2.519	2.934
全 二 十 八 日 追 肥	3.080	3.072	2.522	2.891
無 追 肥	2.980	2.950	2.509	2.813

第一〇 苗ニ含有スル四要素調査 (繼續第二年)

本試験ハ苗代一坪ヨリ生産スル苗ニ含有スル窒素、磷酸、加里及石灰ノ四要素ヲ知リ苗代施肥量標準ヲ決定スル基礎ヲ得ントスルニアリテ播種後廿日目、三十日目、四十日目、五十日目、ノ四回ニ分チ分析ヲ行ヒタルニ各期ニヨリ四要素ノ含有量割合著シク異ナルヲ知ル、尙繼續調査セントス

第一一 播種期播種量對植期對施肥量試験 (繼續第二年)

本試験ハ本田施肥量ト播種期播種量及移植期トノ三者ノ關係ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ハ越中坊主一號ヲ以テ播種期ヲ四月十五日、四月廿五日、五月五日播一坪播種量ヲ五勺、一合、三合移植期ヲ六月五日、六月十五日、六月廿五日ニ區別シ本田施肥量ヲ三割増、五割増トシ都合五十四區ヲ設ケ試験シタルニ六月二十五日植ハ各區トモ収量劣リ其他ハ區々一定セザルヲ以テ更ニ試験ヲ繼續セントス

第一二 除草回数試験 (繼續第三年)

本試験ハ除草ノ回数及時期ト稻ノ収量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルニアリテ晚稻改良美濃坊主ヲ六月一日ニ移植シ左記區別ニヨリ試験シタルニ本年度ノ成績並ニ累年成績ヲ舉グレバ次ノ如シ

區名	除草時期	大正十年	大正十一年	大正十二年	三ヶ年平均
1	6.15 7.1	2.507	3.203	2.874	2.861
	7.15 8.1				
2	6.20 7.5	2.408	3.167	2.787	2.787
	7.20 8.1				
3	6.25 7.15	2.349	3.284	2.738	2.790
	8.1				
4	6.10 6.20	2.537	3.440	2.785	2.921
	7.1 8.1				
5	7.1 7.15	2.435	3.147	2.559	2.714
	8.1				

第一三 施肥量ト移植法トノ關係試験 (繼續第三年)

本試験ハ施肥量ヲ増加タシル場合ニ普通植ト畦植トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ左記區別ニヨリ試験シタルニ各年共概ネ普通植ノ方収量多キヲ示セリ

區名	試験別 (一坪株數)	大正十年	大正十一年	大正十二年	平均
1	三割増肥料普通植(四九株)	2.645	3.596	2.583	2.941
2	全上畦植(四九株)	2.669	3.270	2.764	2.901
3	六割増肥料普通植(五六株)	2.909	3.337	2.945	3.164
4	全上畦植(五六株)	2.920	3.466	2.852	3.079
5	十割増肥料普通植(七二株)	3.320	3.593	3.169	3.361
6	全上畦植(七二株)	3.171	3.381	3.008	3.187

備考 第一區ハ畦間及株間共八寸五分七厘、第二區ハ畦間三株通リ六寸八分五厘毎ニ一尺二寸隔テ、植エ、第三區ハ畦間八寸五分七厘、株間七寸五分、第四區ハ畦間三株通リ六寸八分五厘毎ニ一尺二寸ヲ隔テ、植エ、第五區ハ畦間七寸五分株間ハ六寸六分七厘、第六區ハ畦間三株通リ五寸二分五厘毎ニ一尺二寸ヲ隔テ、植エ、株間六寸六分七厘ニ移植セリ

第一四 波状栽培試験 (繼續第二年)

本試験ハ水田ヲ波状(畦状ノ緩ナルモノ)ニ整地シ其ノ波上ニ水稻ヲ移植シタル場合ニ収量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルニアリテ各區波ノ高サヲ二寸トシ畦幅ヲ二尺及二尺五寸ニ區別シ之レニ株間五寸、全七寸ニ區別シ各普通肥料及五割減肥料ニ區別シ更ニ標準區二區ヲ設ケ都合十區ニツキ試験シタルニ標準區ニ比シ波状區ノ収量多キモノ又ハ少ナキモノアリテ一様ナル成績ヲ得ズ更ニ一ヶ年試験ヲ繼續セントス

第一五 出來過地栽培法試験 (繼續第二年)

本試験ハ出來過ギノ最モ甚シキ土地ヲ選ミ供試品種ヲ改良愛國トシ畦幅三尺、高サ五寸ノ畦立トナシ其兩肩側ニ八寸隔リニ一株宛植エタルモノ(第一區)、畦幅二尺トシテ同上ニセルモノ(第二區)及ビ畦幅一尺五寸高サ三寸ノ畦ヲ作り其中央ニ一株宛植エタルモノ(第三區)三區ヲ設ケ各區一株一本植トシ無肥料栽培ヲナシタルニ本年度ノ成績ニヨレバ第三區最モ収量多シ尙ホ試験ヲ繼續セントス

第一六 直播對株數苗數試験 (繼續第三年)

本試験ハ直播ノ場合ニ於ケル株數及苗數ノ適當ナルモノヲ知ラントスルモノニシテ晚稻改良美濃坊主ヲ以テ試験セシニ左記ノ成績ヲ得タリ

區名	試 驗 別	大 正 十 年	大 正 十 一 年	大 正 十 二 年	平 均
1	四十八株一本立	2.584	3.284	2.827	2.898
2	全 二本立	2.545	3.208	2.939	2.901
3	全 三本立	2.625	3.341	2.795	2.920
4	四十二株一本立	2.861	3.068	2.710	2.880
5	全 二本立	3.043	3.074	2.866	2.994
6	全 三本立	2.990	3.162	2.797	2.963
7	三十六株一本立	2.498	3.249	2.523	2.857
8	全 二本立	2.601	3.485	2.858	2.951
9	全 三本立	2.420	3.484	2.865	2.923

第一七 直 播 法 試 驗 (新 設)

本試験ハ直播ヲナスニ條播ヲナセバ如何ナル結果ヲ得ルヤヲ試ミントスルニアリテ二尺畦、三尺畦、四尺畦ニ播種シタルニ二尺畦播區成績良好ナリキ更ニ試験ヲ繼續セントス

第一八 陸 稻 ノ 水 田 栽 培 實 驗 (繼 續 第 二 年)

本實驗ハ陸稻ヲ早魃田ニ栽培シ常ニ淺水状態ニ置キ特ニ六月及八月中ハ灌水セズシテ早魃状態ニナラシメタルニ本年度ノ成績ニヨレバ江曾島糯一石六斗九升六合、戰捷二石四斗七升ノ反當収量ヲ得タリ尙ホ更ニ繼續試験セントス

第一九 整 地 法 試 驗 (新 設)

本試験ハ濕田ニ於ケル整地法トシテ稻株ヲ上向ニ打チ起シ田小切リセルモノ、稻株ヲ下向ニナシ田小切セズシテ均平整地セルモノ及ビ稻株ヲ上向ニ打チ起シ踏込ミタルモノ、三方法ニツキ試験シタルニ第一區即チ稻株ヲ上向ニ打チ起シ田小切リ整地シタルモノ収量多キヲ示セリ更ニ繼續試験セントス

第二〇 粳 米 精 白 歩 合 調 査 (繼 續 第 二 年)

本調査ハ粳米ヨリ玄米精米ニ至ルノ關係ヲ調査セントスルニアリテ供試品種ハ本縣獎勵品種十八品種ニツキ調査シタルニ乾燥ノ良否ニヨリ著シク

異ナリニケ年間同一様ナル結果ヲ得ザリシモ品種ニヨリ幾分ノ差異アルヲ認メタリ

第二一 粳 乾 燥 法 ト 胴 割 米 ト ノ 關 係 試 驗 (繼 續 第 二 年)

本試験ハ粳ノ乾燥法ト胴割米ノ多少トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ(一)品種トノ關係(二)扱キ方ノ關係(三)稻架ノ方向トノ關係(四)乾燥法(蓆干、架干、蔭干)トノ關係ニツキ試験シタルモ成績區々ナルヲ以テ更ニ試験ヲ繼續セントス

第二二 生 育 調 査 (繼 續 第 十 二 年)

本調査ハ一株一本植トシ移植後十日毎ニ草丈及分蘖ノ狀況ヲ調査シ其年ノ有効分蘖期ヲ知ラントスルモノニシテ高田早稻(早稻)石白(中稻)美濃坊主(晚稻)ノ三種ヲ選ビタリ而シテ本年度ニ於テ最高分蘖期ハ高田早稻ニ於テ八月一日石白ニ於テ七月二十日美濃坊主ニ於テ七月二十日ニシテ最終分蘖期ハ三種共八月一日ニシテ總テ出穂ヲ見タリ

第二三 品 種 比 較 本 試 驗 (繼 續 第 十 六 年)

本試験ハ品種比較豫備試験ノ結果成績優良ニシテ本縣ニ於テ有望ト認メタル品種ニ就キテ詳細ニ其ノ優劣ヲ比較シ本縣ニ最適ノ品種ヲ選定セントスルモノニシテ本年度ニ於テハ五十四品種ニ就キテ比較ヲ行ヒタル結果成績良好ナリト認メタルモノ、本年度ノ成績概要次ノ如シ

品 種 名	出穂期	成熟期	稈 長	穗 長	莖 數	反當収量 玄米	全上収量 平均	平均 年數
125 畿内早稻十一號	8.27	10.14	3.56	6.0	19.0	2.899	3.151	6
126 全 六十六號	8.28	10.15	3.49	6.1	20.0	2.860	3.072	6
134 全 十五號	8.24	10.14	3.20	5.7	19.0	2.717	3.036	5
135 全 三十二號	8.30	10.14	3.34	6.1	18.0	2.928	3.102	5
138 石 白	8.22	10. 4	3.75	6.8	19.3	2.734	2.985	5
142 陸羽四十二號	8.12	9.17	3.68	6.1	15.2	2.503	2.895	4
148 畿内早稻十四號	8.27	10.14	3.31	6.0	22.2	2.869	3.262	4
151 全 七十號	8.17	9.30	3.50	6.8	12.6	2.989	3.130	3
153 愛 國	8.16	10. 1	4.23	6.5	17.0	2.775	2.973	4
154 神 州	8.18	9.23	3.51	6.0	18.9	2.636	3.021	4
164 畿内早稻百五十七號	8.18	10. 3	3.39	7.1	16.4	2.561	2.904	3

165歳内早稻百五十六號	8.17	10.4	3.45	7.1	16.4	2,557	2,901	3
166歳内第百五十八號	8.24	10.14	4.07	6.8	18.0	2,916	2,958	2
199 水澤石白	8.21	9.24	4.69	7.6	14.9	2,890	3,055	2
石白(標準)	8.21	9.26	3.73	6.8	24.7	2,731	2,860	7
高田早稻(全)	8.12	9.16	3.54	6.5	18.4	2,456	2,642	7

第二四 品種比較豫備試験 (繼續第十三年)

本試験ハ各地方ヨリ其ノ土地ノ優良品種ヲ蒐メ當地方ニ於ケル優劣ヲ比較調査シ前記品種比較本試験ニ供用スベキ品種ヲ選定センガ爲ニ豫備的ニ試験ヲ行フモノニシテ本年度ニ於テハ十一品種ニ就キ試験ヲ行ヒタル結果成績可良ニシテ更ニ品種比較本試験ニ供用スルノ價値アリト認メタルモノ、本年度ノ成績概要次ノ如シ

品 種 名	出穂期	成熟期	稈 長	穂 長	莖 數	反當玄米 取 量	米 質
178歳内早稻十六號	8.24	10.14	3.23	5.5	26.0	2.801	中ノ中
179全 七十八號	8.22	10.16	3.29	6.2	19.0	2.825	上ノ下
180歳内第百五十九號	8.29	10.14	3.63	6.1	20.0	2.829	中ノ下
181全 第百六十號	8.27	10.14	3.50	6.4	20.0	2.990	上ノ下
184陸羽百四十三號	8.11	9.19	4.54	6.4	13.0	2.880	上ノ中
187 銀 坊 主 撰	8.24	10.6	3.73	6.5	19.0	3.082	中ノ上

第二五 御大典記念出品稻比較試験 (繼續第八年)

本試験ハ新潟縣農會ノ委托ヲ受ケ同會主催水稻品種改良獎勵規定ニ基ク出品稻ノ優劣ヲ比較調査スルモノニシテ本年度ニ於テハ七品種ニ就キテ試験シタル結果有望ト認メタルモノ、成績概要次ノ如シ

品 種 名	出穂期	成熟期	稈 長	穂 長	莖 數	反當玄米 取 量	全 上 平均取量	平均 年數	米 質
中 石 白	8.21	9.26	3.65	6.5	21.0	2.779	2.811	3	中ノ上
選 石	8.18	9.20	4.23	6.8	16.2	2.744	2.926	2	上ノ下
石白(標準)	8.21	9.27	3.76	6.3	28.0	2.733	2.832	3	上ノ中

第二六 純系淘汰試験 (繼續第九年)

本試験ハ在來品種ノ改良ヲ圖ランガ爲ニ行フモノニシテ大正四年度ニ初

メテ着手シ爾來品種ヲ更ヘテ繼續試験中ノモノニシテ本年度試験ヲ行ヒタルモノ、概況次ノ如シ

イ、大正九年度着手純系淘汰試験

本縣ニハ糯ノ優良品種少キヲ以テ之ガ改良ヲ爲サンガタメ大正九年度ヨリ山崎糯、御膳糯ノ二品種ニ就キ純系淘汰試験ヲ行ヒタルガ其ノ試験經過並ニ有望系統ノ本年度ニ於ケル成績次ノ如シ

品 種 名	取寄先 箇所數	初 年 目 栽 植 株 數	初 年 目 選 拔 株 數	第 二 年 目 各 系 統 栽 植 株 數	第 二 年 目 選 拔 系 統 株 數	第 三 年 目 全 上	第 四 年 目 全 上	各 系 統 全 上 栽培株數	全 上 栽培區數
山崎糯	8	8,400	67	90	42	17	11	240	2
御膳糯	11	10,530	69	90	41	18	13	240	2

上表ノ如ク本年度山崎糯十七系統御膳糯十八系統ニ就キ収量調査ヲ行ヒタル結果山崎糯ニアリテハ十一系統御膳糯ニアリテハ十三系統ヲ選抜シ來年度最後ノ収量調査ヲ行フコト、シタルガ是等ノ系統中有望ナリト認メタルモノ、成績次ノ如シ

品 種 名	系統番號	出穂期	成熟期	稈 長	穂 長	莖 數	反當容量 玄米	米 質
山 崎 糯	29	8.12	9.17	3.56	6.8	11.0	2.190	中ノ上
全	66	8.13	9.18	3.19	6.1	8.5	2.096	中ノ上
御 膳 糯	15	8.22	10.4	3.60	6.9	15.1	2.122	上ノ中
全	51	8.25	10.4	3.33	7.7	11.0	2.105	中ノ上
全	59	8.11	9.17	2.97	6.5	11.4	2.430	中ノ中
山 崎 糯	在來種	8.12	9.16	3.18	7.1	10.1	2.282	中ノ中
御 膳 糯	全	8.24	10.4	3.56	8.1	11.9	2.218	上ノ下

ロ、大正十二年度着手純系淘汰試験

本年度ヨリ新ニ白玉種ノ改良ニ着手セリ此ノ品種ヲ選定シタル理由ハ縣下ノ栽培反別多ク品質良好ニシテ且ツ近時漸次需要ヲ増加シツ、アル醸造用米トシテ適當ナルニ依ル而シテ本年度ハ第一年目トシテ本品種ノ最モ多ク栽培セラル、長岡市、古志、三島ノ兩郡ニ亘リテ七ヶ所ヨリ材料ヲ蒐集シ合計八千四百株ヲ栽植シ之ヨリ百三十四株ヲ選抜シ大正十三年度ヨリ系統栽培スルノ計畫ヲ樹テタリ

第二七 系統集團淘汰試験 (繼續第三年)

本縣水稻獎勵原種中改良愛國、米光、水野錦ハ未ダ純系ニ非ザル爲各種ノ

形質稍齊一ヲ缺ク所アリシヲ以テ先ヅ大正九年度ヨリ改良愛國ノ系統集團淘汰ニ着手シ次デ大正十年度ヨリハ米光、水野錦ノ二品種ニ就キテ淘汰ヲ行ヒタル結果大正十一年度ヲ以テ試験ヲ完結シ優良形質ヲ具フル數系統ヲ混ジテ原々種トナシタルガ此ノ際分離シタル系統中ニハ純系トシテ相當有望ナルモノ多カリシヲ以テ本試験完結ノ翌年ヨリ各系統ヲ純系淘汰試験ノ第三年目以後ノ収量調査ト同様ノ取扱ヲ爲シ最後ニ最モ優良ナル一系統ヲ以テ上記三品種ノ原々種ト爲ス計畫ヲ樹テタリ、而シテ本年度ハ改良愛國十五、米光二十一、水野錦二十系統ヲ栽培シタルガ試験ノ結果十三年度ハ改良愛國十五、米光十二、水野錦十三系統ヲ選抜シ更ニ繼續試験ヲ施行セントス

第二八 自然雜種ニ依ル品種育成試験 (繼續第九年)

大正四年度着手純系淘汰試験愛國中大正五年度ニ於テ自然交雜ニ依リ分離シツ、アル雜種系統ヲ發見シ之ヲ雜種ノ第二代ト見做シ年々家族ヲ分離選抜シテ栽培シツ、アリシガ殆ンド固定セリト認メタル二十二系統ニ就キ収量調査ヲ行ヒタル結果有望ト認メタル十一系統ヲ選抜シテ更ニ來年度(十三年)迄繼續試験スルコト、セリ

第二九 人為雜種ニ依ル品種育成試験 (繼續第五年)

本縣ニ適スル新優良品種ヲ育成センガ爲大正八年度ニ於テ次ノ組合セニ依リ雜種ヲ作り本年度ハ之ガ第四代ヲ八百二十六系統ニ分離栽培シタル結果殆ンド固定セリト認メラル、四十一系統ニ就キテ來年度ヨリ収量調査ヲ爲シ更ニ一方ニ於テ未固定ノ系統ニテ有望ナルモノ二百系ヲ繼續栽培スルノ計畫ヲ樹テタリ。本試験ノ本年度迄ノ經過次ノ如シ

交配番號	品 種 名	第一代 栽培株數	第二代 栽培株數	第三代各系 栽培株數	第三代選 拔家族數	第四代裁 培系統數
1	二本三五ノ三六×愛國五ノ三五	2	2,800	150	21	438
2	中生高宮五ノ三四×愛國五ノ三五	10	14,000	150	15	388

第三〇 獎勵原種ノ一穗粒數調査 (繼續第二年)

本調査ハ原種圃ニ於テ栽培セル一株一本植ノ獎勵原種ノ五株平均一穗粒數ヲ調査シタルモノニシテ本年度ニ於ケル結果ハ次ノ如シ

越前、一號	136粒	銀葉 一號	72粒
龜ノ尾一號	105	中生高宮一號	106
新 岩	135	越中坊主一號	78
新 高	74	米 光	106
水野錦	99	新 愛 國	85
改良愛國	96	石白 一號	77
新大場	78	石白 二號	52
早坊主一號	101	新 石 白	68
新 一 本	67	新 二 本	66

陸 稻 之 部

第一 覆土試験 (新設)

本試験ハ播種ノ際ノ覆土ノ厚薄ガ發芽並ニ生育ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルニアリテ覆土ノ厚サ三分、五分、一寸、二寸ノ四區ヲ設ケ試験シタルニ發芽ハ覆土一寸迄ハ大差ナク二寸區ハ極メテ不良ナリシモ収量ニ至リテハ覆土ノ厚キ方却ツテ多キヲ示セリ尙ホ試験ヲ繼續セントス

第二 畦ノ構造ト土入試験 (繼續第三年)

本試験ハ陸稻栽培ニ際シ土入ノ効果ヲ見ントスルニアリテ無土入區、土入一回區、同土入二回區、土入二回食鹽加用區ノ四區ヲ低畦及平畦ノ二者ニ分チ都合八區ニツキ試験シタルニ本年度ノ成績ハ區々ナリシヲ以テ更ニ繼續試験セントス

第三 水稻獎勵原種ノ畑地栽培試験 (繼續第二年)

本試験ハ水稻獎勵原種ヲ畑地ニ栽培シ旱魃ニ對スル抵抗力ノ多少ヲ知ラントスルニアリテ本年度ニ於ケル成績ヲ舉グレバ次ノ如シ

- 弱 石白二號、新一本、新二本、新大場、銀葉
- 中 改良愛國、早坊主一號、中生高宮一號、越中坊主一號、龜ノ尾一號、新愛國、米光、水野錦
- 強 石白一號、新石白、新岩

第四品種比較試験 (繼續第十三年)

本試験ハ各地方ヨリ品質優良収獲多量ナル品種ヲ蒐集シ其ノ優劣ヲ比較調査シ本縣ニ適スル良種ヲ選抜決定セントスルニアリ本年度之ニ供用セル品種ハ十三品種ニシテ成績比較的良好ナリシモノ次ノ如シ

品 種 名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	一尺間 莖數	反當 玄米容量	米 質
4 秩父糯	8.12	9.22	3.16	6.7	49.0	1.962	中ノ中
6 糯	8.16	9.24	3.41	7.4	34.0	1.771	中ノ上
10 黒龍撰出	8.27	10.3	3.75	8.2	25.3	1.677	中ノ上
12 在十九號	8.15	9.27	3.33	7.8	35.7	1.803	中ノ中
14 早生江曾島糯	8.12	9.23	3.01	6.9	30.2	1.903	中ノ下
江曾島糯(標準)	8.14	9.24	3.26	7.5	31.9	1.819	中ノ中

第五純系淘汰試験 (繼續第七年)

本試験ハ品種比較試験ノ結果優良ト認メタル江島糯ニ就キ大正六年度ヨリ試験ニ着手シタルガ本年度第三回ノ収量調査ヲ爲シタル結果在來種ニ比シ成績良好ト認メタルモノ、成績概要次ノ如シ

系統番號	出穂期	成熟期	稈長	穂長	一尺間 莖數	反當 玄米容量	米 質
2	8.15	9.22	2.98	6.6	38.3	1.969	下ノ上
2 1	8.14	9.20	3.41	6.9	42.3	1.976	中ノ下
2 4	8.16	9.20	3.63	7.4	43.7	1.990	中ノ下
3 9	8.16	9.21	3.59	7.4	34.7	1.893	中ノ上
5 8	8.15	9.20	3.41	7.1	40.7	1.910	中ノ上
原種平均	8.15	9.21	3.57	7.3	42.1	1.673	中ノ下

大豆 之 部

第一移植期試験 (繼續第四年)

本試験ハ前作ノ關係等ニヨリ播種ノ適期ヲ失ヒタル場合ニ於テ移植ト直播トノ比較ヲナサントスルモノニシテ本年度並ニ累年成績次ノ如シ

區名	試 驗 別	九 年	十 年	十一年	十二年	平 均
1	五月廿日播六月五日移植	1.017	1.056	1.072	2.316	1.490
2	六月五日直播	.924	1.564	.998	1.861	1.339
3	五月廿五日播六月十日移植	.927	1.481	.994	1.929	1.333
4	六月十日直播	.878	1.414	.978	1.949	1.305
5	六月五日播六月廿日移植	1.073	1.445	1.184	1.785	1.372
6	六月二日直播	.798	1.274	.853	1.381	1.077
7	六月十五日播六月卅日移植	.640	1.424	.834	1.386	1.071
8	六月三十日直播	.560	1.344	.735	1.009	.912

第二株間廣狹ト施肥量試験 (繼續第四年)

本試験ハ大豆ノ株間廣狹ト施肥量トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ハ刈羽瀧谷トシ左記試験別ニヨリ試験シタル累年成績次ノ如シ

區名	試 驗 別	九 年	十 年	十一年	十二年	平 均
1	普通肥料七寸	—	1.795	1.559	2.472	1.942
2	全 一 尺	1.077	1.943	1.494	1.703	1.554
3	全 一 尺 五 寸	1.515	1.231	1.398	1.314	1.365
4	全 二 尺	1.271	1.155	1.065	1.056	1.137
5	五割増肥料七寸	—	2.379	1.462	2.601	2.127
6	全 一 尺	1.823	2.185	1.236	2.621	1.966
7	全 一 尺 五 寸	1.603	1.910	1.263	1.218	1.499
8	全 二 尺	1.491	1.766	1.126	1.285	1.417
9	十割増肥料七寸	—	1.563	1.474	2.145	1.727
10	全 一 尺	1.675	1.766	1.257	2.302	1.750
11	全 一 尺 五 寸	1.164	1.207	1.114	1.986	1.368
12	全 二 尺	1.068	1.155	1.123	1.878	1.306

第三收穫期試験 (繼續第三年)

本試験ハ大豆ノ收穫期ノ早晚ト收量トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ葉ノ綠色ヲ脱セザル時葉ノ黃色トナリタル時、葉ノ脱落シタル時ノ三期ニ分チ試験シタルニ累年ノ成績區々ニシテ一定セザルヲ以テ更ニ試験ヲ繼續セントス

第四品種比較試験 (繼續第十二年)

本試験ハ各地方ヨリ有望ト認メラル、品種ヲ蒐集シ詳細ニ其ノ優劣ヲ比較シ本縣ニ必適ノ品種ヲ選抜セントスルニアリ、本年度ハ前年度ニ引續キ二十品種ニ就キ試験シタル結果成績比較的良好ナリシモノ次ノ如シ

Table with 8 columns: 品種名, 開花期, 成熟期, 反當子實収量, 全上平均収量, 平均年數, 品質, 子實ノ大 小. Rows include 陸羽二十三號, 陸羽二十四號, etc.

第五 純系淘汰試験 (繼續第七年)

大正六年度着手赤英瀧谷二品種ノ純系淘汰試験ハ前年度ヲ以テ略々完結シタルモ本年度更ニ成績特ニ優良ナル數系統ノミニ就キテ収量其ノ他ノ調査ヲ爲シタル結果次ノ如シ而シテコノ中特ニ優良ナルモノヲ選ビテ來年度ハ原々種トシテ栽培スル計畫ヲ樹テタリ

Table with 8 columns: 品種名, 系統番號, 開花期, 成熟期, 反當子實収量, 全上平均収量, 平均年數, 品質. Rows include 赤英, 全, 全, etc.

以上ノ成績ニ依ツテ見ル時ハ赤英ハ遂ニ原種以上ノモノヲ得ザリシモ瀧谷ニ於テハ三號最モ優良ナリシヲ以テ原々種候補トシテ栽培スルコト、シ瀧谷三十二號ハ全然赤英ト認ムベキモノナリシヲ以テ之ハ赤英ノ優良純系

トシテ保存スルコト、セリ

大 麥 之 部

第一 麥豐凶考照試験 (繼續第二十年)

本試験ノ目的ハ其年ノ麥ノ豐凶ヲ豫想スルト同時ニ監督官廳及主務省ヘ報告スルノ基礎ヲ得ルニアリテ毎年同一耕種法ニヨリ大麥三種小麥三種ヲ栽培スルモノトス本年度ノ成績ニヨレバ次ノ如シ

Table with 7 columns: 種類, 大正十一年, 平年, 比較, 増減. Rows include 大麥三種平均, 小麥三種平均.

備考 1、大麥ハ長岡、今朝白、六角シユバリーノ三種ニシテ小麥ハ横澤、赤皮赤、マーチンズアノバーノ三種ヲ栽培シタルモノナリ 2、表中△印ハ減ヲ示ス

以上ノ成績ニヨレバ収量ニ於テ平年ニ比シ大麥ハ一割六分弱小麥ハ二分強何レモ増収シタリシモ一升重量ニ於テ大麥ハ十三匁小麥ニ於テ五匁何レモ低キヲ見タリ之レ成熟期ニ於テ日照時間少カリシタメ稔實不充分ナリシ故ナリ

第二 栽培法試験 (繼續第四年)

本試験ハ栽培法ノ如何ニヨリ麥ノ生育及収量ニ及ボス關係ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ハ長岡トシ試験區別ハ低畦(溝ノ深サ七寸)平畦(平地ヨリ二分高シ)四寸幅二行播(平畦三尺)及廣播法(畦巾三尺五寸播床巾一尺八寸)ノ四區トナシ試験シタルニ其成績ニ於テ廣播法三石一斗五升五合最高収量ヲ示シ四寸二行播區三石七合平畦區二石九斗二升一合低畦區二石一斗一升九合ノ順位ヲ示セリ尙繼續試験セントス

第三 品種ト施肥トノ關係試験 (繼續第四年)

本試験ハ施肥量ノ多少ト大麥ノ収量トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ハ長岡、純系長岡、飛驒、今朝白、純系今朝白、六角シユバリーノ六品種ヲ選定シ三割減肥料、普通肥料、三割増肥料、六割増肥料、十割増肥料ノ區別ニ施肥量ヲ定メタリ今其成績ヲ見ルニ長岡ニ於テ三割増肥料ノ二

石二斗二升八合ハ第一位ニシテ以下普通肥料、三割減肥料、十割増肥料、六割増肥料區ノ順位ヲナシ純系長岡ニ於テ六割増肥料區ノ一石九斗五升最多収量ヲ示シ三割増肥料普通肥料十割増肥料三割減肥料ノ順序ニシテ飛騨ニ於テ十割増肥料區ノ二石二斗七升八合最多収量ヲ示シ六割増肥料三割増肥料普通肥料三割減肥料區ノ順序ニシテ今朝白ニ於テ三割増肥料區ノ一石九斗四升二合最多収量ヲ示シ普通肥料十割増肥料六割増肥料三割減肥料ノ順序ニシテ純系今朝白ニ於テ十割増肥料區ノ二石三斗八升一合最多収量ニシテ普通肥料六割増肥料三割増肥料三割減肥料ノ順序ニシテ六角シユバリニ於テ六割増肥料區ノ二石六斗九升三合最多収量ヲ示シ三割増肥料十割増肥料普通肥料三割減肥料區ノ順序ヲ得タリ尙繼續試驗セントス

第四 追肥期試驗 (繼續第三年)

本試驗ハ春季ニ於ケル追肥ノ時期ト収量トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ヲ長岡トシ元肥トシテ秋季播種當時ニ堆肥二〇〇貫大豆粕六貫人糞尿五〇貫強過磷酸石灰四貫藁灰二〇貫ヲ施シ春季追肥トシテ人糞尿一八〇貫ヲ四月十日施用區、四月二十日施用區、四月三十日施用區、四月十日四月三十日二回分施用區ヲ設ケ試驗シタルニ本年度ノ成績ハ四月三十日施用區最モ収量多ク四月二十日施用區、四月十日四月三十日二回分施用區、四月十日施用區、無追肥區ノ順序ニシテ尙繼續試驗セントス

第五 磷酸加里極量試驗 (繼續第三年)

本試驗ハ大麥ニ對シ磷酸加里ノ極量ヲ知ラントスルニアリテ供試品種長岡トシ磷酸及加里ヲ標準量(堆肥二〇〇貫大豆粕六貫人糞尿二三〇貫強過磷酸石灰四貫藁灰二〇貫中ニ含有スル磷酸加里ノ分量)ノ二倍量、四倍量トナシ都合五區ヲ設ケ試驗シタリ今本年度ノ成績ヲ見ルニ加里ノ四倍量ノ一石八斗五升九合最高収量ヲ示シ其他ハ一石六斗前後ニシテ伯仲ノ間ニ有リ尙繼續試驗セントス

第六 麥生育調査 (繼續第三年)

本調査ハ麥ノ伸長分蘖ノ状態ヲ調査セントスルニアリテ大麥ニ就テハ長岡小麥ニ於テハ赤皮赤ノ二種ニ付五株平均五日乃至六日毎ニ調査シタルニ降雪前最後ノ調査ヲ見ルニ草丈長岡一尺一寸一分本數十二本六分赤皮赤ハ

九寸一分本數十五本ニシテ降雪後最初ノ調査ノ結果ヲ見ルニ草丈長岡五寸二分本數十四本六分赤皮赤ニ於テ草丈一寸九分本數十七本ナリ尙最後ノ(五月廿日)調査ノ結果ヲ見レバ長岡草丈二尺五分本數(出穂セルモノ)十本六分赤皮赤草丈一尺六寸五分本數十一本六分ナリ尙繼續試驗調査セントス

第七 品種比較本試驗 (繼續第二十四年)

本試驗ハ後記品種比較豫備試驗ノ結果有望ト認メタルモノニ付詳細ニ其ノ優劣ヲ比較シ地方必適ノ良品種ヲ選定セントスルモノニシテ本年度ハ前年度ニ引續キ十八品種ニ就キ試驗セル結果次ノ如シ

品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	反當子實量 收 量	全上平均 收 量	平均年數	品 質
68 裸陸羽一號	5.18	6.16	1.640	1.332	3	中ノ中
76 六ヶ瀬見出	5.23	6.26	2.365	2.243	2	上ノ下
87 穂長	5.21	6.20	2.426	—	—	中ノ下
94 陸羽一號	5.19	6.19	2.781	—	—	中ノ下
97 長岡四十二號	5.20	6.20	2.237	2.095	4	中ノ上
98 今朝白三十六號	5.21	6.18	2.346	2.166	4	中ノ下
100 全五十五號	5.21	6.17	2.283	2.096	4	中ノ下
長 岡 (標 準)	5.21	6.21	2.251	2.073	3	中ノ中

第八 品種比較豫備試驗 (繼續第十年)

本試驗ハ各地方ニ於ケル優良品種ヲ蒐集シ本縣ニ適スルヤ否ヤヲ試ミ有望ト認メタルモノハ之ヲ上記本試驗ニ移サントスルモノニシテ本年度ハ九品種ニ就キ試驗シタルモ概シテ雪害ニ弱ク本試驗ニ移スベキ見込ノモノナシ

第九 系統集團淘汰試驗 (初年目)

本縣北蒲原郡京ヶ瀬村附近ニ廣ク栽培セラル、大麥京ヶ瀬六角ハ品質収量共ニ優良ナル品種ナルヲ以テ本年度之ガ改良ヲ爲サン爲原産地方ヨリ四十二系統ヲ選抜シ來リテ之ヲ栽培シ中二十五系統ヲ選抜シテ次年度更ニ繼續試驗スルコト、セリ

第一〇 純系淘汰試驗 (繼續第七年)

大正五年度着手大麥長岡、今朝白ノ二品種ノ純系淘汰ハ前年度ヲ以テ完

結シタルヲ以テ本年度ヨリ新ニ大麥六角ニ就キテ純系淘汰ヲ行ヒタリ、本品種ハ本縣平坦地方ノ比較的積雪少キ所ニ於テ成績優良ナルヲ以テ本年度縣下三ヶ所ヨリ種子ヲ取寄セ千五百株ヲ栽植シ之ヨリ九十九系統ヲ選抜シ來年度之ガ特性調査ヲ爲スノ計畫ヲ樹テタリ

第一一 人為雜種ニ依ル品種育成試験 (繼續第三年)

裸麥ノ雪害ニ強キモノ及早熟短程ニシテ二毛作ニ適スルモノヲ育成スルノ目的ヲ以テ次ノ如キ交配ヲ行ヒタルニ相當有望ノモノ多キヲ以テ引續キ試験セントス

交配品種名	交配年度	雜種世代	本年度栽培系統數	全上選抜系統數
大麥長岡×裸麥北海道在來種	大正九年度	第三代	251	20(外ニ未固定ノモノ若干)
全上ノ相反	全	全	191	
裸麥陸羽一號×裸麥北海道在來種	大正十年度	第二代	3	69
全上ノ相反	全	全	3	
大麥長岡×大麥關取	大正十一年度	第一代	2	2
全上ノ相反	全	全	2	2

小麥之部

第一 品種對施肥量試驗 (繼續第二年)

本試験ハ施肥量ノ多少ト小麥ノ収量トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ハ横澤、赤皮赤、マーチンスアンバー、在來紫ノ四種トシ施肥量ヲ三割減肥料、普通肥料(堆肥二〇〇貫強過磷酸石灰四貫大豆粕六貫人糞尿一八〇貫藁灰二〇貫)三割増肥料、六割増肥料、十割増肥料ノ五階級トナシ試験シタリ今本年度ノ成績ヲ見ルニ横澤ニ於テ十割増肥料一石四斗四升二合最多収量ヲ示シ赤皮赤ニ於テ三割増肥料一石〇二升一合最多収量ヲ示スマーチンスアンバー及在來紫ニ於テハ他ノ麥ヨリ成熟期一週間遅レタルタメ鳥害ヲ被リタルモノ多ク實際ノ収量ヲ得ザリキ、尙繼續試験セントス

第二 品種比較試験 (繼續第七年)

本試験ハ各地方ヨリ取寄セタル品種ニ付詳細ニ其ノ優劣ヲ比較シ本縣最適ノ良種ヲ選定セントスルモノニシテ本年度ハ六品種ニ就キテ試験シタル

モ雪害ト熟期ノ關係上多少雀害ヲ蒙リタル爲正確ナル成績ヲ得ラレザリシモ甲四〇白小麥トオーストラリヤ及古志郡在來種等比較的成績良好ナリキ

第三 系統集團淘汰試験 (繼續第二年)

原種マーチンスアンバーハ未ダ純系ニ非ザルヲ以テ之ガ改良ヲ爲サン爲前年度ニ引續キ更ニ十四系統ニツキ特性調査ヲ爲シ中十系統ヲ選抜シテ更ニ來年度栽培スルノ計畫ヲ樹テタリ

農具之部

動力用農具

當場ニ備ヒ付ケアル農用動力機及動力用農具ハ普及獎勵ノタメ左記ヶ所へ貸付宣傳セリ

1、廻轉式自働耕耘機

南蒲原郡農會、北魚沼郡農會、刈羽郡農會、三島郡農會、東頸城郡農會ノ五ヶ所ニ貸付實地運轉セリ

2、石油發動機(ゼツト)

古志郡下川西村農會	貸付期間	十日間	{自五月十五日 至五月廿五日
全	全	九日間	{自七月二日 至七月十五日
東蒲原郡農會	全	二日間	{自十一月十七日 至十一月十八日
古志郡福戸村農會	全	一日間	九月廿四日

3、渡邊式ゴムトース

北魚沼郡農會	貸付期間	二日間	{自四月二日 至四月三日
東蒲原郡農會	貸付期間	二日間	{自十一月十七日 至十一月十八日

4、尾上式大豆粕削機

三島郡農會	貸付期間	一日間	四月三十日
東頸城郡農會	農具展覽會陳列	三日間	

5、揚水機(セントルビーガルポンプ)

古志郡下川西村農會	貸付期間	十日間	{自五月十五日 至五月廿五日
古志郡日越村農會	全	二日間	{自八月十六日 至八月十七日

6、脱穀機(旭式)

東頸城郡農會	農具展覽會陳列	三日間	
--------	---------	-----	--

7、畜力用除草器

全

氣象觀測之部

毎日午前十時ニ於テ乾球、濕球、最高氣温、最低氣温、降水量、蒸發量、積雪
地中温度、風向、風力、天氣日照時間等氣象要素ニツキ觀測ヲ行ヒタリ

粃貯藏試驗之部

第一 今摺米改良試驗 (繼續第三年)

本試驗ハ農商務省ノ委托ニ依リ補助金ヲ受ケテ大正九年十二月ヨリ第一
回ノ試驗ニ着手シ大正十二年秋第三回ノ試驗ヲ終リ大体ノ結果ヲ得タルモ
尙繼續試驗スル計畫ナレバ全部ノ試驗完了後其ノ成績ヲ報告セントス

第二 粃「セイロ」貯藏試驗

前記試驗ト同様農商務省ノ委托試驗ニシテ大正十一年秋ヨリ第一回ノ試
驗ニ着手セルモノニシテ數年後試驗完結ノ豫定ナレバ其ノ際全部ノ成績報
告ヲ爲サントス

委托試驗之部

第一 米麥品種適否試驗 (繼續第二年)

本縣ハ他府縣ニ比シ面積廣大ニシテ地方的ニ氣候風土ヲ異ニスルコト大
ナルヲ以テ地方毎ニ品種ノ適否ヲ異ニスルコト著シキ爲本場育成ノ新品種
及品種比較試驗ノ結果優良ト認メタルモノ、地方的適否ヲ知ルト共ニ縣獎
勵原種及優良品種ヲ一般當業者ヘ紹介スルノ目的ヲ以テ前年度ヨリ水稻ニ
アリテハ各郡一ヶ所宛ノ外ニ山間地、湛水地ヲ合シ計二十三ヶ所麥ニアリ
テハ各郡一ヶ所宛ノ適否試驗地ヲ設ケ試驗ハ郡農會ニ委托シ一試驗地ノ面
積ハ各々一反歩トシ委托料ハ稻ニ於テハ七十圓麥ニ於テハ六十圓ヲ交附シ
テ試驗シツ、アリ

本年度モ大体ニ於テ前年度同様ノ品種ニ就キ試驗シタルガ之ガ成績ハ三
ヶ年以上試驗繼續ノ上取纏メテ報告スル所アルベシ

第二 綠肥委托試驗

(1) 綠肥試驗 (繼續第二年)

西蒲原郡農會農事試驗場ヘ委托施行セル狀況次ノ如シ

(イ) 試驗地二町〇七畝歩

(ロ) 試驗項目

紫雲英ノ部

播種期對播種量試驗

種子豫措法試驗

混播法試驗

雪害豫防法試驗

排水法試驗

移植法試驗

施肥法試驗

三要素試驗

菌核豫防法試驗

採種ニ關スル試驗

畑地栽培試驗

施用期試驗

施用量ト石灰加用試驗

採種跡稻作法試驗

苜蓿ノ部

播種期對播種量試驗

直播對播種量試驗

ザードウキツケン其他ノ部

播種期對播種量試驗

栽培法試驗

畦畔利用栽培法試驗

肥料試驗

畑地ニ於ケル各種綠肥比較試驗

(2) 新綠肥適否試驗 (新設)

ザードウキツケン適否ヲ知ラントスルモノニシテ要領次ノ如シ

(イ) 依託地

北蒲原、中蒲原、南蒲原、三島、中魚沼、刈羽、中頸城、西頸城、

岩船、佐渡 以上十ヶ所
 (ロ) 試験地
 一ヶ所ニ付
 田地一反歩 畑地三畝歩

(ハ) 試験項目

田地ノ部

ザードウキツケン、撒播、點播、畦上條播、紫雲英及苜蓿、撒播

畑地ノ部

ザードウキツケン、紫雲英、苜蓿、畦上撒播

以上記載セル試験ノ成績ハ更ニ繼續施行ノ上報告セントス

原種圃之部

第一 水稻原種圃

水稻原種圃ハ古志郡栖吉村大字成願寺ニ設置シ當場ノ直營トス、其反別二町歩ニシテ本年度ニ作付シタル品種別反別、原種生産収量及配付數量ハ次ノ如シ

品 種 名	作 付 反 別	生 産 數 量	配 付 數 量
越 前 一 號	117.0	600	343
龜ノ尾一號	389.1	2,560	1,858
新 岩	68.4	500	353
新 高	203.7	1,700	1,280
水 野 錦	354.0	2,790	2,131
改 良 愛 國	800.6	6,370	5,355
新 大 場	361.5	2,720	1,915
早 坊 主 一 號	282.3	1,900	1,375
新 一 本	88.1	970	842
銀 葉 一 號	85.8	520	347
中 生 高 宮 一 號	85.5	580	445
越 中 坊 主 一 號	109.4	820	639
米 光	515.2	3,650	2,726
新 愛 國	579.4	4,850	3,821
石 白 一 號	83.0	620	400

石 白 二 號	151.6	1,300	1,035
新 石 白	281.5	2,250	1,807
新 二 本	167.9	1,540	1,370
計	4,724.0	36,240	28,042

備考 合計反別二町歩ニ達セザルハ苗代畦畔其他ヲ除キタルニヨル原種生産數量ハ鹽水選セザル數量ニシテ配付數量ハ鹽水選済シノモノトス

第二 陸稻原種圃

前年度ニ繼續シ北魚沼郡堀之内村及城川村ニ二反歩委託設置シタリ、而シテ其品種別反別及生産數量並ニ配付數量次ノ如シ

品 種 名	作 付 反 別	生 産 數 量	配 付 數 量
江 曾 島 櫻	1.5	600	444
計	1.5	600	444

備考 本年ハ早越ノタメ収量極メテ少ナシ

第三 麥原種圃

麥原種圃ハ本年度ヨリ當場内ニ於テ之ヲ設ケ其面積ハ五反歩ニシテ之レヨリ生産セル品種別數量及配付數量次ノ如シ

品 種 名	作 付 反 別	生 産 數 量	配 付 數 量
長 岡	1.2	1,631	1,541
大麥 { 今 朝 白	.4	773	707
六角シユバリー	.5	458	450
飛 騨	.9	1,711	1,679
小麥 { 横 澤	.5	380	370
赤 皮 赤	.9	665	665
マーチンズアンバー	.6	214	189
計	5.0	6,012	5,601

第四 大豆原種圃

大豆原種圃ハ前年度ヨリ當場内ニ設置セリ、而シテ之レガ品種別、作付反別、生産數量、配付數量次ノ如シ

果 樹 之 部

苗木ハ大正十年度農商務省園藝試驗場ヨリ配布ヲ受ケタル穂及ビ各原産地ヨリ取寄セタル穂ヲ接木シ當場ニ於テ養成シタルモノニシテ大正十一年三月八日ヨリ苗木植付ニ着手シ三月卅日迄ニ全部新設園藝部圃場ニ植付ヲ了セリ

本年度ノ果樹苗木ノ生育狀況ヲ述ブレバ和洋梨、葡萄、苹果、桃、櫻桃ハ生育概シテ良好就中葡萄ノ發育佳良ニシテ品種ニヨリテハ多少ノ結果ヲ見タリ明年度ニ於テ葡萄ハ各種共相當ノ結果ヲ得ベク桃モ亦多少ノ結果ヲ見ル豫定ナリ

今各試驗區ニ於ケル成績ノ概要ヲ記スレバ次ノ如シ

第 一 和 梨 品 種 試 驗

全國各地ニ於テ著名ナル和梨並ニ支那梨廿二種ヲ蒐集シ其ノ特性ヲ明カニシテ品種選擇ノ便ニ供セントス

供 試 品 種

市原早生、赤穂、早生幸藏、幸藏、長十郎、太白、明月、廿世紀、今村夏世界一、早生赤、泰平、今村秋、晚三吉、丸形晚三吉、萊陽慈梨、北海、巾着、獨逸、早生長十郎、鴨梨、博多青

第 二 和 梨 肥 料 配 合 試 驗

肥料要素ノ配合ガ梨樹ノ枝幹、果實並ニ病虫ノ被害ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ試驗研究シ其ノ根本的解決ヲ遂ゲントスルモノニシテ供試品種ハ早生赤及廿世紀ノ二種トナス

第 三 和 梨 施 肥 期 試 驗

和梨肥料施用期及其ノ回数ガ果實ノ發育ニ及ボス影響ヲ試驗研究シ最モ經濟的ナル施肥期ヲ知ラントスルモノニシテ供試品種ハ長十郎及晚三吉ノ二種トナス

第 四 和 洋 梨 整 枝 剪 定 法 試 驗

縣下ニ普通採用セララル、棚作整枝ト關西地方ニ採用セラレツ、アル盃狀

形整枝トノ比較ヲ行フ外主枝側枝等ノ剪定法ニ付各種ノ試験研究ヲ行ハントスルモノナリ

供試品種

長十郎、丸形晚三吉、明月、エフィボアール、グルーモルソー、ル・レクチエー、ローレンス、ドワイアンヌジュコミス、トライアンフ、ウインターネリス

第五 洋梨品種試験

縣内並ニ縣外ニ於テ著名ナル洋梨ノ品種ヲ蒐集シテ本縣適種選擇ノ便ニ供セントス

供試品種

ブレコース、バートレット、フレミツシユピーテイ、ヂユツセスダングレーム、ボーレークレルジョウ、ラ・フランス、バツスクラツサン、イースターボーレー

第六 米國種葡萄品種試験

縣内並ニ縣外ニ於テ優良ト認ムル、デラウエア外八品種ヲ蒐集シテ品種比較試験ヲ行ハントス

收量調査 (樹齡三年)

一品種三本宛、株間(二間半、二間半)反當四十八本植

品 種 名	一本當平均收量	反當同上	品 種 名	一本當平均收量	反當全上
デラウエア	—	—	ハーバート	13	624
キャンベルスアーリー	16	768	ガバナート	40	1,920
ブライントン	—	—	チクマ	—	—
レアイソシントン	48	2,304	スイラント	—	—
ミルズ	—	—			

第七 歐洲種葡萄品種試験

本縣ニ於テ露地栽培ニ適スル著名ナル歐洲種アドリアジャン外十九種ヲ蒐集シテ品種選擇ノ便ニ供セントス

收量調査 (樹齡三年)

品種四本宛 株間(二間、二間)反當七十五本植

品 種 名	一本當平均收量	反當同上	品 種 名	一本當平均收量	反當全上
アドリアジャン	15	1,125	ラフォレブランジュ	—	—
シヤスラー	26	1,950	ゴールデンチヤンピオン	—	—
フォンテンアロー	—	—	マスカットハンパーク	—	—
スイートウォーター	7	525	マラガマスガテラ	18	1,350
シヤスラーローズ	17	1,275	ゴールデンクイン	—	—
ゴールデンシヤスラー	—	—	トーカーオージョーン	8	600
ジャンファンデル	5	375	ガリサー	—	—
ピノアラン	10	750	ブラツクアフリカント	—	—
フォスターシードリング	6	450	ソイニオンジョーン	—	—
ブラツクハンパーク	16	1,200	ホワイトシードリング	—	—
ユン	7	525			

第八 歐洲及米國種葡萄免疫性砒木試験

本縣ニ於ケル代表的歐洲並ニ米國種葡萄九品種ニ各免疫性砒木六品種ヲ接木シテ接着ノ状況果實並ニ地上部ニ及ボス影響ヲ檢セントスルモノナリ

供試免疫性砒木

ルベストリス、セントジョージ、リバリアルベストリス三三〇六號、リバリアルベストリス三三〇九號、リバリアグロアールモンペリエー、モンチコラリバリアー八八〇八號、ソロニスオセロー六一三號

供試品種

アドリアジャン、シヤスラーローズ、フォスターシードリング、マラガマスガテラ、ブラツクハンパーク、ゴールデンクイン、デラウエア、キャンベルスアーリー、甲州

第九 甲州葡萄整枝法試験

甲州、善光寺並ニ三尺ノ模範栽培ヲ行ハントスルモノナリ

供試品種

甲州、善光寺、三尺

第一〇 甘柿品種試験

全國ニ於テ著名ナル甘柿ノ品種ヲ蒐集シテ品種選擇ノ便ニ供セントス

供試品種

子成場、三國一、四谷、禪寺丸、富有、甘百目、水鳥、花御所、白乳、天

神御所、代々丸、次郎、伽羅、御寺

第一一 澁柿品種試験

澁柿中ノ優良品種ヲ蒐集シテ品種選擇ノ便ニ供セントス

供試品種

田倉、倉光、早生寺社、堂上蜂屋、蜂屋、會津身不知、西條、祇園坊、平核無シ、川端、紋平

第一二 桃品種試験

縣内並ニ縣外ニ於テ著名ナル桃ノ品種ヲ蒐集シテ品種選擇ノ便ニ資セントス

供試品種

アムスデンジューン、田中早生、橘樹早生、東雲水蜜、小林水蜜、大正早生、トライアンプ、アーリーリバーズ、傳十郎、カールマン、離核、白桃二宮ミュール、土用、大統領、上海、金桃、エルパーター

第一三 栗品種試験

本邦ニ於ケル栗ノ著名ナル品種ヲ蒐集シテ比較試験ヲ行ハントス

供試品種

豊多摩早生、青島、乙宗、鹿ノ瓜、銀寄、金田、岸根、手々打、長光寺霜被、今北、毛長、本庄

第一四 苹果品種試験

縣内並ニ縣外ニ於ケル著名ナル苹果ノ品種ヲ蒐集シテ品種ノ特性ヲ明ニシテ品種選擇ノ便ニ供セントスルト同時ニ苹果模範栽培ヲ行ハントス

供試品種

紅魁、小錦、祝、旭、鳳凰卵、紅玉、新倭錦、倭錦、國光、黄魁、デリシアス、ピスマルク、ミネトンカ、エイケン、スミスサイダー、キングダビット、ニウタウンスピツピン、ワインサツブ、レンネツトジユカナダ、カルビールルーゲ、コツクスオレンジビツピン、カルビールブラン、ハイスロツブ、アレキサダー

第一五 苹果整枝法試験

棚作整枝法ヲ採用シテ盃狀形整枝法トノ比較試験ニ供セントス

供試品種

紅魁、小錦、新倭錦、祝、紅玉

第一六 櫻桃品種試験

全國ニ於ケル著名ナル櫻桃ノ品種ヲ蒐集シテ、品種選擇ノ便ニ供セントス

供試品種

日の出、チャツプマン、ピガログラン、大紫、センチニアル、黄玉、エルトンエロースバニツシユ、メージューク、那翁、ランバート、レンホルテンス、フローレンス、ピング、シミツ、ピカロー

蔬菜之部

第一 茄子品種比較試験 (繼續第三年)

從來試験ノ結果優良ト認メタル品種ニ更ニ新品種ヲ加ヘ比較試験ヲ行ヒ優良品種ヲ選擇セントス

本年度ノ成績次ノ如シ

品 種 名	反當重量	全個數	累年平均成績		備 考
			重量	個數	
中 生 山 茄	788.400	57.240	948.950	66.020	矢原、折戸、眞黒、
蒂 紫	1333.800	83.520	1466.900	91.560	芹川ノ四品種ハ
矢 原	1461.600	77.760	1461.600	77.760	本年度ヨリ試験
魚 沼 巾 着	703.800	23.940	932.465	58.140	ニ着手セリ
改 良 巾 着	822.600	27.720	922.995	37.010	
蔓 細 千 成	664.200	56.340	997.750	74.675	
折 戸	829.800	66.420	829.800	66.420	
行 徳	1049.400	89.280	1209.300	86.640	
眞 黒	1040.400	70.380	1040.400	70.380	
芹 川	595.800	36.540	595.800	36.540	

以上ノ成績ニヨレバ蒂紫最モ収量多ク矢原之ニ次ギ行徳、眞黒、蔓細千成、中生山茄、魚沼巾着、改良巾着、折戸、芹川ノ順位トス

第二 茄子壠素刺戟効果試験 (第四年)

茄子種子ヲ鹽水中ニ於テ豫措スル時ハ其ノ刺戟ガ茄子ノ發芽及生育、収量ニ如何ナル影響アルヤヲ試驗セントスルニアリ

供試品種ハ蒂紫茄ニシテ試驗成績次ノ如シ

試 驗 別	發芽歩合	收穫始メ	全 終	反 當 收 量		立枯病被 害歩合
				重 量	個 數	
1. 水一合、鹽一匁ノ液ニ種 子六匁、七〇日浸漬	90	6.20	10.16	1101.600	67.860	—
2. 水一合、鹽二匁五分ノ液 ニ種子六匁、七〇日浸漬	60	6.20	10.16	1213.200	70.740	—
3. 水一合、鹽五匁ノ液ニ種 子六匁、七〇日浸漬	50	6.20	10.16	1227.600	71.820	—
4. 水一合、鹽一匁ノ液ニ種 子六匁、一〇〇日浸漬	26	6.20	10.16	1251.000	75.780	—
5. 水一合、鹽二匁五分ノ液 ニ種子六匁、一〇〇日浸漬	25	6.20	10.16	1341.000	79.020	—
6. 水一合、鹽五匁ノ液ニ種 子六匁、一〇〇日浸漬	30	6.20	10.16	1333.800	79.920	—
7. 水一合、鹽一匁ノ液ニ種 子六匁、一五〇日浸漬	10	6.20	10.16	1245.600	78.820	—
8. 水一合、鹽二匁五分ノ液 ニ種子六匁、一五〇日浸漬	13	6.20	10.16	1645.200	98.820	—
9. 水一合、鹽五匁ノ液ニ種 子六匁、一五〇日浸漬	10	6.20	10.16	2417.400	132.300	—
10. 標 準 區	90	6.20	10.16	1173.600	67.680	—

以上ノ成績ニヨレバ第一區ヲ除クノ外ハ標準區ニ比シ収量多ク鹽素ノ量多ク浸漬日數多キモノニ於テ収量ノ増加ヲ見タリ故ニ最モ適當ナル鹽素ノ量及浸漬期間ヲ發見セントスルモノナリ、尙繼續試驗ヲ行ハントス

第 三 西瓜移植法試驗 (新 設)

走り西瓜ノ出荷ハ高價ニシテ有利ナレドモ其ノ發芽ニ當リ往々種蠅ノ害ヲ被リ栽培ニ支障ヲ來スコトアリ故ニ之ガ播種ニ當リ温床内ニ於テ種々ノ方法ニヨリテ播種シ適當ノ時期ニ本圃ニ定植シ以テ其ノ優劣ヲ比較試驗セントス供試品種ト、ムワットソン、一區面積十坪十二株

本年度ノ成績次ノ如シ

試 驗 別	播種月日	定植月日	温床内ノ狀況	定植後ノ狀況	總個數	總重量
標 準 區	4.28	—	—	普通	14	8.220
藥製鉢ニ播種シ其儘定植	3.25	5.25	中	下	22	17.920
竹製五分目鉢ニ播種シ其儘定植	3.25	5.25	良	良	28	21.875
竹製搖籃ニ播種シ定植ノ際取ハツス	3.25	5.25	稍 良	中	16	12.330
木製取ハツス鉢ニ播種シ定植ノ際取ハツス	3.25	5.25	稍 良	中	28	18.600
直播亞鉛引鐵板枠ヲ被ヒタルモノ	4.28	—	—	普通	26	12.600

備考 本年度ハ二圃ニ亘ル烈風ノ爲メ甚ダシク損傷ヲ被リタリ

藥製鉢ノ大サハ直徑三寸七分深サ四寸ノ圓筒形ニシテ此ノ内ニ作土(堆肥三分五厘、糞土四分、砂土二分五厘、油粕五厘ノ混合腐熟セルモノ)ヲ入レ播種セルモノトス一個價格三錢五厘

竹製五分目鉢ハ竹ノ實製ニシテ直徑四寸深サ四寸ノ圓筒形一個三錢

竹製搖籃ハ直徑四寸深サ四寸二分ノ圓筒形一個二錢

木製取ハツス鉢ハ直徑三寸八分深サ四寸ノ立方形一個四錢

亞鉛引鐵板枠ハ直徑七寸深サ四寸ノ圓筒形一個六錢五厘

以上試驗ノ結果優良ナルハ竹製五分目鉢竹製搖籃ニシテ藥製鉢及木製取ハツス鉢ハ略同様ノ結果ヲ示セリ是レ温床内成育ノ際氣水ノ透通良好ニシテ稍乾燥ニ保ツヲ可トシ之ニ反シ鉢内濕潤セルモノハ徒長其ノ他疾病等ニ侵サレ良好ナル結果ヲ得ザル爲メナリシガ如シ

尙ホ本試驗ハ繼續施行セントス

第 四 甘藷純系淘汰試驗 (繼續第四年)

既往三ケ年間ニ於テ紅赤ヨリ一系統金時ヨリ七系統ヲ選抜シ本年ヨリ從來ノ紅赤種トノ比較試驗ヲ行ヒタリ

品 種 名	反 當 收 量		反 當 内 譯			貯 藏 中 ノ 腐 敗
	個 數	重 量	大 諸 數	全 重 量	小 諸 數	
普通紅赤	10.850	437.500	8.350	387.000	3.000	35.000
紅赤純系	12.510	380.100	6.900	324.000	5.610	57.000
普通金時	7.600	344.000	6.100	364.000	1.500	30.000
金時一號	8.070	412.500	4.740	348.000	3.300	64.500
全二號	8.400	412.800	5.250	358.800	3.150	66.000
全三號	9.300	435.000	5.550	357.000	3.750	78.000
全四號	10.950	478.200	6.450	393.000	4.500	85.200
全五號	8.100	360.000	5.250	324.000	2.850	36.000
全六號	12.300	559.000	6.000	408.000	6.300	51.000
全七號	8.040	351.000	4.290	291.000	3.750	60.000

以上収量比較ノ結果紅赤純系ハ普通品種ヨリ稍劣リ金時五號全七號ハ普通金時ヨリ収量劣リ他五系統ハ各普通金時ヨリモ増収シ就中金時四號及六號ニ於テハ著シキ増収ヲ示セリ

第 五 甘藷品種對貯藏試驗 (繼續第四年)

甘藷中如何ナル品種ガ最モ貯藏力強大ナルヤヲ試驗セントスルニアリ

試験成績次ノ如シ

貯藏窖 北蒲原郡安田村大字保田字庵地ニ於ケル山腹ノ横窖

品 種 名	貯藏月日	貯藏前		取出月日	貯藏後		貯藏中重量減少歩合	健全諸		腐敗諸		腐敗歩合
		個數	重量		個數	重量		個數	重量	個數	重量	
櫻 諸	10.22	68	5,230	3.31	68	4,775	8.7	67	4,685	1	0,090	1.9
屋 久 島	10.22	55	4,107	3.31	55	3,960	3.6	55	3,960	—	—	—
チ ヤ ホ	10.22	50	5,460	3.31	50	4,990	8.6	46	4,755	4	0,235	4.7
紅 赤	10.22	110	5,410	3.31	110	5,035	6.9	110	5,035	—	—	—
金 時	10.22	100	5,200	3.31	100	4,900	5.8	100	4,900	—	—	—
千 葉 赤	10.22	61	5,390	3.31	61	5,135	4.7	58	4,905	3	0,230	4.5
相 州 白	10.22	95	5,400	3.31	95	5,045	6.6	95	5,045	—	—	—
三 州	10.22	57	3,910	3.31	57	3,730	4.6	57	3,730	—	—	—
紫 諸	10.22	65	5,560	3.31	65	5,255	5.5	64	5,215	1	0,040	0.8
栗 諸	10.22	75	5,050	3.31	75	4,650	7.9	75	4,650	—	—	—
源 氏	10.22	120	5,170	3.31	120	5,100	1.3	120	5,100	—	—	—
石川縣金時	10.22	80	5,260	3.31	80	4,700	10.6	80	4,700	—	—	—
蔓 無	10.22	70	3,910	3.31	70	3,600	7.9	67	3,370	3	0,230	6.4
三 保 諸	10.22	50	3,600	3.31	50	2,860	18.9	44	2,470	6	0,390	13.6

以上ノ成績ニ依レバ三保諸、蔓無、チヤホ、千葉赤ハ腐敗歩合多ク櫻諸紫諸ハ之ニ次ギ屋久島、紅赤、金時、相州白、三州、栗諸、源氏、石川縣金時ハ腐敗歩合最モ少シ

第 六 甘 藷 耕 種 法 試 験 (新 設)

甘藷ノ各種栽培法中本縣ニ最モ適シタル方法ヲ選擇セントスルニアリ本年度ノ成績次ノ如シ

試 験 別	反當株數	反 當 收 量		全 内 評			
		個 數	重 量	大 諸 數	全 重 量	小 諸 數	全 重 量
赤 澤 式	3,360	12,400	498,000	6,400	414,000	6,000	84,000
袴 田 式	2,880	13,700	520,000	7,300	456,000	6,400	64,000
園 木 式	1,200	9,600	460,000	5,400	424,000	4,200	36,000
德 永 式	360	9,975	392,500	4,675	325,000	5,300	67,500
支 柱 立	3,360	14,000	542,000	7,300	462,000	6,700	80,000
敷 藁	3,360	12,880	544,000	6,280	454,000	6,600	90,000

以上ノ成績ニヨレバ敷藁區最モ収量多ク支柱立、袴田式、赤澤式ノ順位ニシテ園木式及德永式最モ収量少シ而シテ諸ノ着生ハ赤澤式、支柱立ニ於

テ近成ノ状態ヲ見袴田式ニ於テハ之等前二者ヨリ稍遠成リトナリ園木式敷藁區德永式最モ遠成リヲ示セリ形狀大小ニ於テハ赤澤式、袴田式最モ整一ニシテ支柱立區之レニ亞ギ他ノ三者ハ不整ノモノ多シ故ニ以上六種ノ栽培法中本年度ノ試験ニ於テ成績良好ナリシハ赤澤式、支柱立、袴田式トス

第 七 甘 藷 品 種 比 較 試 験 (繼 續 第 五 年)

本試験ハ甘藷ノ優良ナル品種中ヨリ特ニ本縣ニ適スル品種ヲ選擇スルニアリテ供試品種及収量次ノ如シ

品 種 名	反 當 收 量		果年平均反當収量
	個 數	重 量	
紅 赤	10,850	497,500	494,969
金 時	7,600	394,000	548,964
石川縣金時	8,700	468,000	629,113
千 葉 赤	6,850	465,850	419,670
屋 久 島	9,500	530,350	564,281
櫻 諸	12,450	679,000	679,000
チ ヤ ホ	11,200	825,500	818,032
相 州 白	8,350	414,850	589,795
三 州	8,400	363,900	466,781
栗 諸	10,300	616,850	539,623
源 氏	12,600	388,500	403,050
蔓 無	11,800	532,400	774,448
三 保 諸	8,750	420,000	420,000
紫 諸	10,450	647,850	633,022

成績比較一覽表

比較項目	紅赤	金時	石川縣金時	千葉赤	屋久島	櫻諸	チヤホ	相州白	三州	栗諸	源氏	蔓無	三保諸	紫諸
本年度収量順位	9	12	7	8	6	2	1	11	14	4	13	5	10	3
本年試食風味順位	1	3	2	5	8	10	13	7	12	4	9	11	6	14
果年平均収量順位	10	8	5	13	7	3	1	6	11	9	14	2	12	4
平均年數	9	7	5	4	6	1	4	3	5	5	4	5	1	4

以上ノ成績ニヨレバ概シテ風味ノ良否ト収量ノ多少トハ相反スルモノ、如ク風味良好ナルモノハ紅赤、金時、栗諸等ニシテ収量多キハチヤホ、蔓無、紫諸、櫻諸等ナリ而シテ品質並ニ収量ノ二點ヲ考察シ加フルニ貯藏力

ヲ以テセバ金時、紅赤、栗藪、屋久島等可ナルベシ

第八 馬鈴薯増収法試験

馬鈴薯ノ栽植ニ際シ切斷豫措ヲ行ヒ又生育期間中其ノ分蘗數ノ制限ガ収量ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ試験セントスルニアリ

供試品種 アーリーローズ種(一個平均二十匁ノ薯)標準區ハ三區ヲ設ク試驗成績次ノ如シ

區名	試驗別	反當収量		全 内 譯					
		個數	重量	大薯數	全重量	中薯數	全重量	小薯數	全重量
1	標準區(縱斷シテ即時栽植)	18,432	355,916	3,666	133,833	6,616	141,000	8,150	81,083
2	縱斷シテ晝夜間豫措	17,400	245,500	2,350	62,500	6,300	122,500	8,750	60,500
3	全上二晝夜間	16,700	246,400	1,800	57,250	6,700	119,900	8,200	69,250
4	全上五晝夜間	16,950	264,750	2,950	91,250	6,700	110,000	7,300	63,500
5	薯ノ厚サノ二倍ノ覆土	15,650	269,000	1,900	81,000	7,050	130,500	6,700	57,500
6	薯ノ厚サニ等シキ覆土	14,500	292,500	2,250	90,000	7,750	155,750	4,500	46,750
7	除藪シテ一本立	13,000	270,000	2,600	100,000	6,000	123,500	4,400	46,500
8	除藪シテ三本立	14,500	254,500	2,500	66,000	6,050	117,000	14,500	254,500
9	除藪セザルモノ	15,800	322,750	3,500	133,500	7,300	123,500	15,800	322,750
10	薯ノ上部少シク切斷	21,450	385,000	1,000	43,250	13,000	266,000	21,450	385,000
11	全下部全	21,850	356,750	3,000	98,250	10,500	189,000	21,850	356,750

以上試驗ノ結果ニヨレバ第十區最モ収量多ク之ニ次グニ第十一區第一區(標準區)ノ順位ニシテ他ノ區ハ何レモ標準區ヨリ劣リ成績良好ナラザルガ如シ尙ホ試驗ヲ繼續施行セントス

第九 馬鈴薯貯藏法試験

春作馬鈴薯ハ其ノ貯藏中ニ於テ腐敗歩合多ク且ツ種薯トシテ貯藏セルモノモ其ノ状態良シキヲ得ザルトキハ徒ニ發芽伸長シテ不適ナルモノアリ依リテ之ガ完全ナル貯藏法ヲ試驗研究セントス

供試品種 アーリーローズ種

本年度成績次ノ如シ

區名	試驗別	貯藏前		取出		貯藏後		貯藏後健全薯		全腐敗薯		腐敗歩合	萌芽伸長度
		月日	總個數	月日	總個數	月日	總個數	總重量	總個數	總重量	總個數		
1	斷縦穴内ニ石油箱結トシタルモノ	7.10	550	4.20	550	7.10	9,600	520	9,150	30	0,450	4.0	4.7

2	舍内無蓋コンクリート穴ニ依詰トシタルモノ	7.10	562	10,000	4.20	562	8,400	550	8,200	12	0,200	16.0	2.4
3	清涼ナル舍内ニテ石油箱ニ砂ト共ニ詰タルモノ	7.10	380	10,000	4.20	380	8,080	326	7,000	54	1,080	19.2	13.4
4	舍内土間ニ平穴ヲホリ石油箱詰トセルモノ	7.10	430	10,000	4.20	430	8,350	335	6,600	95	1,750	16.5	18.4
5	森林中ニ平穴ヲ設ケ石油箱ニ詰メ貯藏セルモノ	7.10	485	10,000	4.20	485	8,940	346	6,600	135	2,340	10.6	26.2

以上ノ成績ニヨレバ第一區、第二區最モ良好ニシテ第三區之レニ亞ギ第四、第五區共ニ成績不良ニシテ種薯用及販賣用トシテ不可ナリ而シテ貯藏場所ノ状態ヲ見ルニ第一區、第二區共ニ清涼ニシテ濕氣少ク第三區ハ砂中ニ埋メタルヲ以テ稍砂土ニ濕氣ヲ含ミ萌芽ヲ促セルモノナルベク第四、第五區共ニ温暖且ツ濕氣多キタメ萌芽ノ度甚シク結果不良トナリタルモノナラン之レヲ要スルニ貯藏場所ハ夏季清涼ニシテ濕氣少ク冬季ハ凍結セザル範圍内ニ於テ濕氣少ナキトキハ萌芽ノ伸長少ナク成績概シテ可ナリト思惟ス

尙ホ本試驗ヲ繼續施行セントス

第一〇 葉莖菜類貯藏法試験 (新設)

冬季本縣ハ積雪量多キ爲メニ蔬菜ハ拂底ヲ來シ從ツテ價格モ頗ル騰貴スレバ之ガ需用ノ圓滑ヲ計ラントスル目的ヲ以テ本試驗ヲ施行セントスルモノナリ本年度ノ成績次ノ如シ

貯藏大正十二年十一月二十八日 取出十三年四月十日

試驗場所	試驗別	區供試名	貯藏前		一株平均		貯藏後		一株平均		備考
			總重量	均重量	總重量	均重量	總重量	均重量			
堆肥	根ヲ附シタル儘ニ並列ス	1	千住黒柄葱	85	2,000	0.0235	82	1,200	0.0146	40.0	風乾サレタル爲メ外部ノ腐敗僅少ナルモ乾燥セル爲重サヲ減ズ
	根ヲ附シ根部ノミヲ砂中ニ埋メ縦ニ並列ス	2	全	94	2,000	0.0213	94	0.885	0.0094	55.8	外部腐敗甚ダシ
舍内	根ヲ附シタル儘ニ並列ス	3	芝罘白菜	5	5,000	1,000	5	2,260	0.452	54.8	風乾サレタル爲メ外葉萎凋シタルモ結果良好ナリ
	根ヲ附シタル儘全部ヲ砂中ニ縦ニ並列シ埋ム	4	全	5	5,000	1,000	5	2,450	0.480	51.0	濕氣多キタメ外葉腐敗甚ダシ
内	根ヲ切斷シ縦ニ並列ス	5	全	5	5,000	1,000	5	1,840	0.368	63.2	第三區ト略同様ナルモ稍劣リヲ見ル

圃地	根附シタル儘ニ並列ス	千住 葱	85	2.000	0.0235	25	0.430	0.0173	78.5	濕氣ノ穴内ニ
										播種シタルタメ發芽伸長シ軟白甚ナリ
屋内コンクリート平穴	根附シタル儘ニ並列ス	全	94	2.000	0.0213	77	1.615	0.0222	17.6	發芽伸長甚ダシク實品トスルヲ得ズ
	根附シタル儘ニ並列ス	芝罘白菜	5	5.000	1.000	5	2.260	0.452	54.8	外葉泥狀トナリ甚ダシキハ抽穂シタルモノアリ
	根附シタル儘全部ヲ砂中ニ埋メ列シ埋ム	全	5	5.000	1.000	5	2.450	0.490	51.0	右全上
高燥ナル露地ノ平穴	根ヲ切斷シ縦ニ並列ス	全	5	5.000	1.000	5	1.840	0.368	63.2	右同様ナルモ根ナキ爲メ前者ノ如ク成長セザルタメ日方減シタルナラン
	根附シタル儘ニ並列ス	千住葱	98	2.000	0.0204	91	1.715	0.0185	14.3	濕氣稍多キモ状態シテ可ナリ
	根附シタル儘ニ並列ス	全	97	2.000	0.0206	95	1.710	0.0180	14.5	右全上
	根附シタル儘ニ並列ス	芝罘白菜	5	5.000	1.000	5	3.180	0.636	36.4	概シテ可ナリ
	根附シタル儘全部ヲ砂中ニ埋メ列シ埋ム	全	5	5.000	1.000	5	2.850	0.570	43.0	外葉腐敗甚ダシク状態可ナラズ
根ヲ切斷シ縦ニ並列ス	全	5	5.000	1.000	5	2.300	0.460	54.0	状態第十三區ヨリ稍劣ル	

備考 欠損歩合トハ重量減少歩合並ニ腐敗歩合トノ合計トス

以上試験ノ結果葱ニ於テハ貯藏場所ノ濕氣少ク概シテ冷涼ニシテ通風中庸ナル所ニ根ヲ附シタル儘貯藏スルヲ可トシ白菜モ亦凍結セザル範圍内ニ於テ冷涼ナル場所ヲ可トスルガ如シ尙ホ試験ヲ繼續セントス

第一一 里芋品種比較試験 (新設)

從來縣内ニ於テ栽培セラレツ、アル里芋ハ其ノ品種雜駁ナレバ之ガ優良ナル品種ヲ選擇セントスルニアリ
本年度ノ成績次ノ如シ

品 種 名	反當重量	全 内 譯		用 途
		親芋重量	子芋重量	
東京早生丸	496.000	156.000	340.000	子芋
静岡六月芋	583.000	191.000	392.000	全
新潟長岡中生	521.000	177.000	344.000	全

石川傳道寺芋	432,000	119,000	320,000	全
埼玉土垂芋	440,000	140,000	300,000	全
東京唐の芋	371,643	278,310	93,333	親芋
東京八ツ頭	629,000	585,000	44,000	全

以上ノ成績ニヨレバ子芋用トシテ最モ收量多キハ静岡六月芋ニシテ新潟長岡中生東京早生丸之ニ次ギ親芋用トシテハ八ツ頭ヲ優良トス

第一二 蘿蔔品種比較試験

本縣ニ最モ適スル蘿蔔ノ品種ヲ選擇センガ爲メ各地ニ於ケル優良品種ヲ蒐集シ比較栽培セントスルニアリ

供試品種及成績次ノ如シ

品 種 名	反 當 収 量		累年平均反當収量	試験年數	用 途
	個 數	重 量			
宮 重	7,200	1,788,000	1,592.255	5	漬用兼用
津 島 屋	6,300	1,224,000	983.500	3	全
赤 筋	7,050	1,021,500	902.200	3	漬 用
島 筋	6,300	156,000	1,518.550	3	全
練 馬	6,090	1,320,000	1,360.030	2	全
聖 護 院	5,730	1,567,500	1,365.891	3	兼用、生食用
櫻 島	5,580	481,500	481.500	1	兼用、漬用
方 領	6,060	1,183,500	966.440	5	兼 用

以上試験ノ結果収量最モ多キハ宮重ニシテ之ニ次グハ聖護院、島大根トス而シテ用途風味ノ點ヨリ優良ナルモノヲ選擇スレバ比較的粘重ナル地ニ於テハ宮重、聖護院トシ中庸ノ地ニ於テハ練馬、方領ヲ可トシ砂地ニ於テハ津島屋大根ヲ可トスルガ如シ

第一三 白菜品種比較試験 (繼續第五年)

本縣ニ適スル優良ナル品種ヲ選擇セントスルニアリ
本年度ノ成績次ノ如シ

品 種 名	反 當 収 量		累年平均反當収量	結球難易	結球早晚	株ノ大小	病虫害抵抗力	試験年數
	總個數	總重量						
芝 罘	1,880	1,450,000	1,643.505	易	中ノ晩	大	稍強	5
抱 頭 連	1,980	1,530,000	1,364.576	易	中ノ晩	大	強	5
金 州	1,980	1,456,000	1,961.170	稍難	晩	大	最強	5

愛知(名和前)	2,540	1,188,000	1,062,500	易	早	小	弱	2
直 隸	2,740	1,297,000	1,481,513	稍難	中	中	中	5
開 城	2,840	834,000	1,080,320	難	中	中	強	5

以上試験ノ結果収量其ノ他ノ諸點ヲ考慮シ其ノ最モ優良ナルハ芝罘、抱頭連ニシテ金州之ニ次グ愛知(名和前)白菜ハ病害ニ對スル抵抗力弱ク結球小ニシテ稍早生ナルモ収量多カラズ直隸、開城ハ収量稍多キモ外觀ヨロシカラザルタメ商品トシテハ不向ナリ

第一四 南瓜落顆防止法試験

南瓜ノ落顆ニハ種々ノ原因アルヲ以テ之ガ着顆ニ最モ適當セル栽培法ヲ試験セントス

供試品種 居留木橋、試験面積一區 十坪

本年度ノ成績次ノ如シ

區名	試 驗 別	蔓ノ重量	顆ノ個數	顆ノ重量	雌花ノ開花始	着顆數	收穫始メ	備 考
1	直 播 區	10,600	23	11,500	7.10	13	8.22	形狀大ナレドモ未熟ナリ
2	移 植 區	6,900	19	8,000	7.16	12	8.17	
3	舊 種 子	3,300	23	10,000	7. 3	8	8. 7	着花多ク登熟早シ
4	自 然 放 任 區	4,900	17	5,000	7.11	15	8.17	草勢強ク着花多カラズ
5	親 蔓 一 本 立	2,800	16	2,400	7.16	13	8.20	着花少ク登熟中席ナリ
6	本葉三枚目ニテ摘心シ子蔓二本出シ各三節目ヨリ摘心シ親蔓二本宛出ス着顆後ハ全節ヨリ二節ヲ殘シテ摘心爾後ハ一節ヲ殘シテ摘心	2,800	23	6,600	7.16	11	8.22	生育抑制ニ過ケル爲メカ落花多シ
7	本葉五枚目ニテ摘心シ子蔓四本ヲ出シ着顆後ハ全節ヨリ二節ヲ殘シ摘心ス爾後ハ一節ヲ殘シテ摘心ス	2,400	22	6,600	7.16	10	8.22	全
8	親蔓伸長シ先端捲轉屈曲シタル時摘心シ先端ヨリ四本ノ子蔓出ス着顆後ハ前者ニ全シ	5,300	28	10,500	7.16	9	8.22	着花多ク形狀大ニシテ登熟中席ナリ

以上試験ノ結果収量ニ於テハ直播區、第八區、舊種子區最モ多ク登熟早キハ舊種子區及移植區親蔓一本立區ナリ而シテ第六、第七區ノ成績可良ナラザルハ摘心時期ノ乾燥ニ失シタルハ結果蔓ノ發生遲緩トナリ多少抑制セラレタルニ依ルナラン而シテ第八區ノ良好ナルハ草勢ノ稍旺盛トナリタル時

期ノ摘心ナレバ子蔓ノ發生容易ニシテ順調ナル生育ヲ遂ゲタル結果ナラント思惟セラル尙ホ本試験ヲ繼續セントス

農藝化學部

木 框 試 驗 之 部

第 一 天 然 供 給 量 試 驗 (續第十一一年)

本試驗ハ水稻生育中土壤及灌溉水ヨリ天然ニ供給セラル、三要素量ヲ知ラントスルニアリ其ノ試驗區別及成績ハ次ノ如シ

試驗區別肥料名	反 當 施 用 量	藥	批	穀	實	平 均	
						藥	穀 實
1 完全區 { 硫 安 過 磷 加 硫 加	5 5 5	132.3	3.0	140.0	203.2	162.0	
2 無窒素區 { 硫 安 過 磷 加 硫 加	5 5 5	65.7	0.8	77.3	104.1	103.0	
3 無磷酸區 { 硫 安 過 磷 加 硫 加	5 5 5	123.7	3.9	124.4	200.3	138.5	
4 無加里區 { 硫 安 過 磷 加 硫 加	5 5 5	90.8	3.8	114.7	188.5	119.2	
5 無肥料區 { 硫 安 過 磷 加 硫 加	— — —	55.9	0.7	72.1	91.0	93.2	

成績概要 十ヶ年ノ平均ニヨレバ完全區成績最モ優良ニシテ無磷酸區、無加里區、無窒素區、無肥料區ノ順次ニ其ノ收量ヲ減ズ。而シテ大正十年ヨリ十二年ニ至ル三ヶ年ノ平均ニヨレバ土壤及灌溉水等ヨリ天然ニ供給セラル、量ハ約窒素二貫三百匁磷酸一貫六百匁加里一貫三百匁ノ如シ

第 二 有 機 質 肥 料 ノ 地 力 ニ 及 ボ ス 影 響 試 驗 (續第四年)

本試驗ハ各種有機質肥料ノ地力ニ及ボス影響ヲ試驗セントスルモノニシテ其試驗區別及成績ハ次ノ如シ

試 驗 區 別	反 當 施 用 量	藥	批	實 穀	平 均	
					藥	穀 實
1 堆肥施用區	400.000	61.2	0.9	89.1	124.2	112.8
2 { 堆 肥 施用區 大豆粕 骨 粉 木 灰	200.000	57.9	0.5	101.8	126.2	122.4
	12.000					
	3.000					
	10.000					
3 { 野 草 施用區 大豆粕 骨 粉 木 灰	200.000	88.2	3.8	99.3	136.1	144.1
	15.000					
	4.000					
	11.000					

4	紫雲英 大豆粕 骨粉 木灰	施用區	209.000	67.7	1.4	98.9	126.9	116.2
			12.000					
			4.500					
			13.000					
5	生 糞 大豆粕 骨粉 木灰	施用區	160.000	84.1	1.4	106.9	119.0	114.4
			15.000					
			4.700					
			8.000					
6	大豆粕 骨粉 木灰	施用區	30.000	91.8	2.8	105.2	132.5	133.5
			4.000					
			10.000					
7	硫 安 過磷酸 硫 加	施用區	10.000	99.5	1.5	110.9	139.3	134.9
			10.000					
			4.000					
			4.000					

備考 一、窒素ハ反當二貫トナシ内一貫ヲ野草等ノ如キ自給肥料ニテ施シ他ノ一貫ハ大豆粕ニテ施セリ

二、磷酸及加里ハ共ニ反當二貫トシ自給肥料中ニ於ケル磷酸及加里ノ不足分ハ骨粉及木灰ニテ施セリ

成績概要 四ヶ年ノ平均ニ於テ最モ収量大ナルハ野草ヲ施セルモノニシテ最モ収量劣レルハ堆肥ノミヲ施セルモノナリ

土管試験之部

第一 水稻ニ對スル主要窒素質及磷酸

質肥料ノ吸收率檢定試験 (繼續第二年)

本試験ハ水稻ニ對シ窒素及磷酸ノ吸收率ヲ檢定セントスルモノニシテ窒素質肥料トシテハ硫安、魚肥、大豆粕、米糠、石灰窒素、紫雲英及堆肥ノ七種ヲ選定シ磷酸質肥料トシテハ過磷酸、骨粉、米糠、木灰及磷酸アルミナノ五種ヲ選定シ試験ヲ施行セリ其ノ成績ハ尙不明ノ點多キヲ以テ繼續試験ヲ施行セントス

第二 窒素對磷酸及加里ノ比率試験 (新設)

本試験ハ窒素ニ對シ磷酸及加里ノ適當ナル比ヲ見出サントスルニアリ窒素ノ量ハ反當三貫及五貫ニシテ其ノ比ハ窒素ノ1ニ對シ磷酸又ハ加里ハ0.8.1.2及1.4ニツキ試験ヲ施行セリ其ノ成績ハ窒素ニ對シ磷酸又ハ加里ノ比大ナルモノ程成績優良ナリキ而シテ尙繼續試験ヲ施行セントス

圓筒試験之部

第一 磷酸鹽ノ形態試験 (繼續第三年)

本試験ハ各種磷酸鹽ノ形態ガ稻作ニ及ボス影響ヲ查定セントスルモノナリ而シテ磷酸鹽ノ形態トシテハ磷酸一石灰、磷酸二石灰、磷酸三石灰、磷酸鐵及磷酸礬土區ノ五種ヲ選定シ試験ヲ施行セリ本年度ノ試験成績ハ磷酸一石灰最モ成績優良ナリキ而シテ尙試験ヲ繼續施行セントス

第二 磷酸鹽ノ肥効上鐵及礬土ノ

影響試験 (繼續第二年)

本試験ハ磷酸鹽ノ肥効上鐵及礬土ノ多少及稻作ニ及ボス影響ヲ查定セントスルモノニシテ磷酸鹽トシテハ磷酸一石灰、磷酸二石灰、磷酸三石灰、磷酸鐵及磷酸礬土ノ五種ヲ選ビ鐵及礬土ハ水酸化物トシテ「ボツド」ニツキ各五瓦ヲ加用セリ其ノ成績ハ尙不明ノ點多キヲ以テ繼續試験セントス

第三 施肥標準調査三要素試験 (繼續第二年)

本試験ハ三要素試験ノ結果施肥ノ標準ヲ查定セントスルモノニシテ西頸城郡、東頸城郡、南魚沼郡、東蒲原郡、岩船郡ノ五郡ヨリ郡内ノ代表的土壤トモ認ムベキ土壤三十ヶ所ヲ選定シ之等ノ土壤ニツキ三要素試験ヲ施行セリ

施肥標準調査之部

第一 實地踏査

本年度ニ於ケル施肥標準調査事業ノ實地踏査ハ岩船郡八ヶ町村、東蒲原郡十一ヶ町村、東頸城郡十四ヶ町村計三十三町村ニツキ施行セリ

第二 依託試験

從來施行シ來リタル施肥標準調査施行町村ニツキ依託試験ヲ施行シタルモノハ南魚沼郡石打村、中ノ島村、六日町、城内村、浦佐村、東村、大崎村ノ七ヶ町村北魚沼郡城川村、古志郡上組村、刈羽郡刈羽村、中頸城郡新

井町、西頸城郡名立町、大和川村ノ二ヶ町村、佐渡郡畑野村及新穂村ノ二ヶ村計十五ヶ町村ナリ

分 析 之 部

第 一 依 頼 及 場 用 分 析

本年度ニ於ケル依頼及場用分析ノ件數及其ノ他ハ次ノ如シ

所屬別及種類別	件 數	成分數	窒 素	磷 酸	加 里	其 他	理學的分析	
依 頼	土 壤	13	42	8	8	11	13	2
	肥 料	35	77	26	29	22	—	—
	水	—	—	—	—	—	—	—
	小 計	48	119	34	37	33	13	2
場 用	土 壤	13	39	4	4	4	19	8
	肥 料	24	47	20	16	11	—	—
	其 他	6	16	6	6	4	—	—
	小 計	43	102	30	26	19	19	8
	合 計	91	221	64	63	52	32	10

第 二 施 肥 標 準 調 査 用 土 壤 分 析

施肥標準調査用土壤ノ分析件數及其他ハ次ノ如シ

件數	成分數	水分	腐植質	窒素	磷酸	加里	石灰	鐵及 礬土	酸度	吸 收 率		理學的 分 析
										窒素	磷酸	
76	615	7	76	76	76	76	76	—	76	75	76	30%

病 虫 部

試 驗 之 部

第 一 稻熱病品種關係試驗

其一 圃場試驗 (繼續第五年)

稻熱病ノ發生シ易キ水田三ヶ所ニ水稲獎勵品種各六十株宛ヲ區劃ヲ設ケズ栽植シ其ノ發病狀況ヲ平均セルニ米光、石白一號、全二號、新二本、越中坊主一號、新高等ニ多ク中生高宮一號、新岩、銀葉一號、越前一號、早坊主一號、改良愛國等ニ輕微ナリシ

其二 ポット試驗 (繼續第二年)

莖五寸ノ素燒ノ植木鉢ニ各獎勵品種二十五乃至三十粒宛ヲ播種シ木框内ニ並列シテ埋メ日中ハ簾ニテ蔽ヒ時々灌水シ發病シ易キ環境ヲ與フルコトニ注意セリ七月三十日乃至八月四日播種シ九月七日調査セル發病狀況ハ新二本、新石白、新大場、龜ノ尾一號、越中坊主一號、早坊主一號等ニ多ク越前一號、新愛國、中生高宮一號、新岩、改良愛國、銀葉一號等ハ輕微ナリシ

第 二 大麥斑葉病品種トノ關係試驗 (新設)

長岡、飛驒、今朝白、六角シユバリー、横澤ノ五品種ヲ播種ノ際種子ヲ濕シ斑葉病孢子ヲ附着セシメ發病程度ヲ調査セントセシモ孢子貯藏中或ル種ノ昆虫ニ喰盡サレ試驗實施不可能トナレリ

第 三 石灰硫黃合劑土壤消毒法試驗 (繼續第二年)

茄子連作地ニ石灰硫黃合劑ボーメ一度液ヲ耕起後坪當リ二升ノ割合ニ全面ニ撒布シ整地後再ビ同様ニ全面ニ撒布セルモノト作溝中ニノミ撒布セルモノトニ分テ青枯病發生狀況ヲ試驗セシニ豫防區ハ何レモ標準區ニ比シ却テ發病株數多ク反對ノ結果ヲ生ゼリ

第 四 野鼠毒劑驅除試驗 (繼續第三年)

亞砒酸及猫イラズノ使用法ト効果トノ關係ヲ試驗セントシ中蒲原郡横越村大字小杉、長岡市草生津町、古志郡石津村大字釜ヶ島、北魚沼郡千田村大字千谷川ノ四ヶ所ニ於テ驅除ヲ實施セリ、毒劑ノ使用法次ノ如シ

一、亞砒酸團子 粉(蕎麥粉ト米糠トヲ等分ニ混ズ)一斗亞砒酸一封度ノ割合ニ捏ネ混ゼ團子トス

一、馬鈴薯ヲ賽ノ目形ニ切り、亞硫酸ト蕎麥粉トヲ混合セルモノヲ附着セシメタルモノニテ馬鈴薯一貫三百匁ニ對シ亞硫酸九十匁、蕎麥粉五合ノ割合ニ使用ス

一、猫イラズ團子粉(前ニ同ジ)一斗、猫イラズ半封度ノ割合ニ捏ネ混ゼ團子トス

一、馬鈴薯ヲ賽ノ目形ニ切り猫イラズヲ塗附シ其ノ上ニ煎リ糠ヲ附着セシメタルモノニテ馬鈴薯一貫三百匁、猫イラズ半封度、糠八合ノ割合ニ使用ス

是レ等ノ毒餌ハ施行地畑十町歩宛團子ハ一斗馬鈴薯ハ一貫三百匁ノ割合ニ調製セリ

効果ハ何レノ方法モ大差ナク施行翌日ヨリ地上ニ斃鼠ヲ見ルコト多ク畑ヲ耕起スレバ坑道内ニモ發見スルコト亦多シ、而シテ經濟的ナルト調製法ノ簡單ニシテ不快ニ感ゼザルトニ依リ亞硫酸ハ猫イラズニ優ル

第五 コクゾール燻蒸試験 (繼續第二年)

蒸發法、藥量、燻蒸時間、溫度等ト殺虫力トノ關係ヲ試驗セルモノニテ其ノ種類左ノ如シ

其一 燻蒸箱ノ場合

施行月日	燻蒸時間	藥量	溫度	
			最高	最低
五月十八日	68	0.5	22.0	12.0
七月六日	48	0.7	21.0	17.0
七月九日	48	0.5	21.0	19.0

燻蒸箱ハ五十一立方尺ノモノニテ燻蒸法ハ板上ニ疊表ノ切片ヲ二枚重ネ其ノ上ニ所要ノ藥量ヲ撒布セリ表中ノ溫度ハ攝氏トス何レノ場合ニ於テモ殺虫力充分ナリ

其二 倉庫ノ場合

施行月日	燻蒸時間	藥量	溫度	
			最高	最低
五月二十九日	72	0.5	17.0	13.0
六月四日	72	0.61	19.0	15.5
六月十五日	72	0.69	21.0	17.0
六月十一日	48	3.93	22.0	18.0

六月十一日實施ノモノハ二硫化炭素ヲ以テ行ヒタルモノナリ燻蒸法ハ板上ニ簾二枚ヲ敷キ重ネ其上ニ一封度乃至二封度ヲ瓶ヨリ直接撒布セリ

右三回中第一回ハ生殘虫ノ割合稍多カリシモ燻蒸ノ目的ヲ達シ得タリ第二回、第三回ハ精細ニ検査スレバ生殘虫ヲ發見シ得ルモノ其ノ程度ハ僅少ニテ成績良好ナリ以上三回共ニ二硫化炭素ノ場合ニ比較シ殺虫程度ノ優ルコトヲ認メ得タリ

第六 銅石鹼液効果試験 (繼續第三年)

胡瓜露菌病ニ對シ六匁式銅石鹼液、三斗式石灰ボルドウ液ノ豫防上ノ効果ヲ比較セルモノニシテ豫防區ハ何レモ無撒布ノモノニ比シ發病程度甚ダ尠ク効果甚ダ大ナリ而シテ兩液ノ間ニハ著シキ差異ヲ認メ難シ

調査之部

第一 梨粉介殼虫

梨粉介殼虫ノ形態、經過習性等ニ就キ調査セル事項左ノ如シ

一、形態ニ關スルモノ

卵、孵化當時ノ幼虫、雌幼虫、雌成虫、雄蛹、雄成虫

一、經過習性ニ關スルモノ

發生回数ト時期、産卵期間、卵塊孵化期間、孵化幼虫生存日數、卵塊卵粒數、越冬狀態蟻トノ關係

一、驅除試驗ニ關スルモノ

松脂合劑、デリス石鹼、硫酸ニコチン等ノ殺卵力

委託試驗之部

第一 梨害虫驅除試驗

其一 姬心喰虫ト袋掛時期トノ關係 (繼續第二年)

袋掛時期ガ姬心喰虫被害程度ニ及ボス影響ヲ試驗セルモノナルガ第一回袋掛ヲ六月十五日ヨリ全三十日迄ノ間第二回袋掛ヲ八月一日ヨリ全十日迄ノ間ニ實施セルモノハ被害程度ニ著シキ差異ナク第一回袋掛ヲ六月三十日以後トスル時ハ象鼻虫、大心喰虫ノ被害多ク第二回ヲ八月十日以後トスル時ハ姬心喰虫ノ加害ヲ増加ス

其二 梨粉介殼虫驅除試驗 (新設)

松脂合劑(水一斗松脂百匁苛性曹達二十五匁魚油一合)ヲ八月二十日九月五日全二十日ノ三回ニ撒布セルモノニテ撒布區ハ無撒布區ニ比シ収穫果ニ對スル被害率半減スルノミナラズ被害果ニ於ケル加害程度モ輕微ナリ

バンド誘殺實驗ニ於テハ一個所平均二三個ノ害虫ヲ捕獲シ得タルニ過ギザリシ

其三 梨葉捲虫驅除試驗 (新設)

砒酸鉛ノ効果ヲ試驗セルモノナレドモ害虫ノ發生尠ク成績ヲ得ルニ至ラズ

第二 葡萄病害豫防試驗 (新設)

六匁式銅石鹼液、三斗式石灰ボルドウ液、醋酸銅液(水一斗醋酸銅五十匁膠二匁)ノ房枯病豫防上ノ效果ヲ比較シ並ニ施肥量ト發病程度トノ關係ヲ試驗セルモノニシテ藥劑ハ九月二日全廿六日ノ二回ニ撒布セリ發病狀況ハ豫防區ハ何レモ大差ナカリシモ醋酸銅液ニ稍少クボルドウ液ニ稍多カリシ

肥料關係ニ於テハ本場標準肥料區ト全肥料中ノ藁灰、硫酸加里丈ヲ二倍量使用セル區トハ大差ナク何レモ本場標準肥料二倍區ト全米糠、骨粉丈二倍量使用セルモノニ比シ發病程度輕微ナリシ

第三 茶葉捲虫驅除試驗 (繼續第二年)

砒酸鉛ノ效果ヲ試驗セルモノナレドモ害虫ノ發生尠ク效果ヲ比較シ得ザリシ

第四 胡蘿蔔斑點病豫防試驗 (新設)

石灰、石灰硫黃合劑(土壤ニ撒布)ボルドウ液、銅石鹼液ノ豫防效果ヲ比較シ併セテ肥料ト發病トノ關係ヲ試驗セルモノナルガ各區ノ間ニ著シキ差異ヲ生ゼザリシ

第五 ユリミ、ズ驅除試驗 (新設)

苗代専用デリス劑、除虫菊、ハナヒリノキ、胡桃ノ果皮、カーバイト等ノ效果ヲ比較セルモノニシテ坪當リ除虫菊二十匁、胡桃ノ果皮カーバイト各百匁ハ驅除ノ效果不充分ニテ、ハナヒリノキ坪當リ三十匁區ハ效果最大ニシテ、デリス劑三十匁區之レニ次ギ良好ナリ

野鼠室扶斯菌配布之部

本年野鼠室扶斯菌ヲ配布シ驅除ヲ實施セル面積ノ郡市別左ノ如シ

郡市名	春季 (單位町)			秋季 (單位町)		
	恙有 毒地	農耕地	計	恙有 毒地	農耕地	計
岩船郡	—	150	150	—	150	150
北蒲原郡	130	735	865	57	431	488
東蒲原郡	—	—	—	—	—	—
西蒲原郡	—	83	83	—	128	128
中蒲原郡	—	79	79	20	200	220
南蒲原郡	—	132	132	—	58	58
三島郡	—	120	120	—	—	—
古志郡	—	161	161	20	146	166
中魚沼郡	—	—	—	—	—	—
北魚沼郡	—	—	—	—	—	—
南魚沼郡	82	620	702	82	20	102
刈羽郡	—	1406	1406	—	95	95
中頸城郡	—	410	410	—	1093	1093
西頸城郡	—	88	88	—	37	37
東頸城郡	—	—	—	—	—	—
佐渡郡	—	—	—	—	10	10
新潟市	—	120	120	—	—	—
長岡市	43	165	208	—	—	—
高田市	—	—	—	—	—	—
合計	255	4269	4524	179	2368	2547

農業技術員養成部

姓名	年齢	出身	職別	備考
田中 一郎	22	東京府	農科	
山田 健二	21	大阪府	農科	
佐藤 三郎	23	和歌山県	農科	
鈴木 四郎	20	奈良県	農科	
高橋 五郎	24	京都府	農科	
中村 六郎	22	兵庫県	農科	
渡辺 七郎	21	徳島県	農科	
森田 八郎	23	香川県	農科	
松本 九郎	22	愛媛県	農科	
伊藤 十郎	21	高知県	農科	
清水 十一郎	23	福岡県	農科	
山崎 十二郎	22	佐賀県	農科	
佐々木 十三郎	21	長門県	農科	
高木 十四郎	23	山口県	農科	
橋本 十五郎	22	徳島県	農科	
石川 十六郎	21	香川県	農科	
藤田 十七郎	23	愛媛県	農科	
佐藤 十八郎	22	高知県	農科	
鈴木 十九郎	21	福岡県	農科	
高橋 二十郎	23	佐賀県	農科	
中村 二十一郎	22	長門県	農科	
渡辺 二十二郎	21	山口県	農科	
森田 二十三郎	23	徳島県	農科	
松本 二十四郎	22	香川県	農科	
伊藤 二十五郎	21	愛媛県	農科	
清水 二十六郎	23	高知県	農科	
山崎 二十七郎	22	福岡県	農科	
佐々木 二十八郎	21	佐賀県	農科	
高木 二十九郎	23	長門県	農科	
橋本 三十郎	22	山口県	農科	
石川 三十一郎	21	徳島県	農科	
藤田 三十二郎	23	香川県	農科	
佐藤 三十三郎	22	愛媛県	農科	
鈴木 三十四郎	21	高知県	農科	
高橋 三十五郎	23	福岡県	農科	
中村 三十六郎	22	佐賀県	農科	
渡辺 三十七郎	21	長門県	農科	
森田 三十八郎	23	山口県	農科	
松本 三十九郎	22	徳島県	農科	
伊藤 四十郎	21	香川県	農科	
清水 四十一郎	23	愛媛県	農科	
山崎 四十二郎	22	高知県	農科	
佐々木 四十三郎	21	福岡県	農科	
高木 四十四郎	23	佐賀県	農科	
橋本 四十五郎	22	長門県	農科	
石川 四十六郎	21	山口県	農科	
藤田 四十七郎	23	徳島県	農科	
佐藤 四十八郎	22	香川県	農科	
鈴木 四十九郎	21	愛媛県	農科	
高橋 五十郎	23	高知県	農科	

農業技術員養成部

農業技術員養成部

町村農業技術員養成事業ハ大正八年度ノ創設ニテ爾來專任技師一名ニ養成事務ヲ擔任セシメ事業ノ完備ヲ計レリ

本年度入場志願者三十九名中選抜試験ノ結果二十名ニ入場ヲ許可シ大正十二年四月一日ヨリ大正十三年三月三十一日ニ至ル滿一ケ年養成セリ

修得者氏名其ノ他ノ事項次ノ如シ (大正十三年五月調)

氏名	自費給費	學歷	原籍	修得後ノ狀況	備考
本間庄一	自費	元甲種農卒	岩船郡大川谷村温出	北魚沼郡農會技手	
川口周作	給費	相當認定	佐渡郡外海府村關	佐渡郡外海府村技術員	
藤井教藏	全上	元乙種農卒	佐渡郡河崎村原黑	新潟縣農事試驗場業手	
橋本榮太郎	全上	相當認定	北蒲原郡中浦村苑町	北蒲原郡鴻沼村技術員	
金子勘四郎	全上	元乙種農卒	佐渡郡西三川村西三川	新潟縣農事試驗場業手	
後藤仁作	全上	全上	佐渡郡金澤村泉	佐渡郡高千村技術員	
宮崎政治	全上	全上	中頸城郡斐太村乙吉	自營	
長島幸善	全上	全上	佐渡郡知野村目黒町	佐渡郡内海府村技術員	
小林辰雄	全上	全上	中魚沼郡仙田村	自營	
丸山長政	全上	相當認定	中魚沼郡外丸村外丸	全上	
樋口虎雄	全上	全上	中魚沼郡眞谷村	南魚沼郡大崎村技術員	
齋藤博治	全上	全上	中蒲原郡大郷村赤澄	新潟縣農事試驗場業手	
加藤重一郎	全上	元乙種農卒	古志郡上組村前島	古志郡役所産業係	
佐藤周平	全上	元甲種農卒	東頸城郡松代村千年	自營	
平山利一	全上	全上	中頸城郡吉川村小苗代	全上	
山本仁太郎	全上	元乙種農卒	古志郡上組村村松	北越電氣會社藏王工場	
佐藤雄四郎	全上	相當認定	中魚沼郡岩澤村岩澤	新潟縣農事試驗場業手	
池田實治	全上	全上	中魚沼郡中條村中條	自營	
榎田隆太郎	全上	元乙種農卒	佐渡郡金澤村中興	古志郡上川西村技術員	
大石清	自費	全上	古志郡上北谷村太田	自營	

100

庶務部

第一、庶務部之職責
第二、庶務部之組織
第三、庶務部之業務

姓名	職稱	職別	職等	職年	職級
張	庶務	主任	一等	10	主任
李	庶務	副主任	二等	8	副主任
王	庶務	主任	一等	12	主任
趙	庶務	副主任	二等	6	副主任
孫	庶務	主任	一等	9	主任
周	庶務	副主任	二等	7	副主任
吳	庶務	主任	一等	11	主任
鄭	庶務	副主任	二等	5	副主任
陳	庶務	主任	一等	13	主任
林	庶務	副主任	二等	4	副主任
黃	庶務	主任	一等	14	主任
楊	庶務	副主任	二等	3	副主任
彭	庶務	主任	一等	15	主任
張	庶務	副主任	二等	2	副主任
李	庶務	主任	一等	16	主任
王	庶務	副主任	二等	1	副主任
趙	庶務	主任	一等	17	主任
孫	庶務	副主任	二等	0	副主任
周	庶務	主任	一等	18	主任
吳	庶務	副主任	二等	19	副主任
鄭	庶務	主任	一等	20	主任
陳	庶務	副主任	二等	21	副主任
林	庶務	主任	一等	22	主任
黃	庶務	副主任	二等	23	副主任
楊	庶務	主任	一等	24	主任
彭	庶務	副主任	二等	25	副主任
張	庶務	主任	一等	26	主任
李	庶務	副主任	二等	27	副主任
王	庶務	主任	一等	28	主任
趙	庶務	副主任	二等	29	副主任
孫	庶務	主任	一等	30	主任
周	庶務	副主任	二等	31	副主任
吳	庶務	主任	一等	32	主任
鄭	庶務	副主任	二等	33	副主任
陳	庶務	主任	一等	34	主任
林	庶務	副主任	二等	35	副主任
黃	庶務	主任	一等	36	主任
楊	庶務	副主任	二等	37	副主任
彭	庶務	主任	一等	38	主任
張	庶務	副主任	二等	39	副主任
李	庶務	主任	一等	40	主任
王	庶務	副主任	二等	41	副主任
趙	庶務	主任	一等	42	主任
孫	庶務	副主任	二等	43	副主任
周	庶務	主任	一等	44	主任
吳	庶務	副主任	二等	45	副主任
鄭	庶務	主任	一等	46	主任
陳	庶務	副主任	二等	47	副主任
林	庶務	主任	一等	48	主任
黃	庶務	副主任	二等	49	副主任
楊	庶務	主任	一等	50	主任
彭	庶務	副主任	二等	51	副主任
張	庶務	主任	一等	52	主任
李	庶務	副主任	二等	53	副主任
王	庶務	主任	一等	54	主任
趙	庶務	副主任	二等	55	副主任
孫	庶務	主任	一等	56	主任
周	庶務	副主任	二等	57	副主任
吳	庶務	主任	一等	58	主任
鄭	庶務	副主任	二等	59	副主任
陳	庶務	主任	一等	60	主任
林	庶務	副主任	二等	61	副主任
黃	庶務	主任	一等	62	主任
楊	庶務	副主任	二等	63	副主任
彭	庶務	主任	一等	64	主任
張	庶務	副主任	二等	65	副主任
李	庶務	主任	一等	66	主任
王	庶務	副主任	二等	67	副主任
趙	庶務	主任	一等	68	主任
孫	庶務	副主任	二等	69	副主任
周	庶務	主任	一等	70	主任
吳	庶務	副主任	二等	71	副主任
鄭	庶務	主任	一等	72	主任
陳	庶務	副主任	二等	73	副主任
林	庶務	主任	一等	74	主任
黃	庶務	副主任	二等	75	副主任
楊	庶務	主任	一等	76	主任
彭	庶務	副主任	二等	77	副主任
張	庶務	主任	一等	78	主任
李	庶務	副主任	二等	79	副主任
王	庶務	主任	一等	80	主任
趙	庶務	副主任	二等	81	副主任
孫	庶務	主任	一等	82	主任
周	庶務	副主任	二等	83	副主任
吳	庶務	主任	一等	84	主任
鄭	庶務	副主任	二等	85	副主任
陳	庶務	主任	一等	86	主任
林	庶務	副主任	二等	87	副主任
黃	庶務	主任	一等	88	主任
楊	庶務	副主任	二等	89	副主任
彭	庶務	主任	一等	90	主任
張	庶務	副主任	二等	91	副主任
李	庶務	主任	一等	92	主任
王	庶務	副主任	二等	93	副主任
趙	庶務	主任	一等	94	主任
孫	庶務	副主任	二等	95	副主任
周	庶務	主任	一等	96	主任
吳	庶務	副主任	二等	97	副主任
鄭	庶務	主任	一等	98	主任
陳	庶務	副主任	二等	99	副主任

庶 務 部

庶務部

第一 出張ニ關スル事項

用務	回数	日數	用務	回数	日數
農事視察	34	91	農事調査其他監督	9	25
種苗採取	34	241	實地指導	14	29
施肥標準調査其他指導	22	156	擔當人協議會其他	11	31
圃地耕作會其他審査	35	116	栽培調査	10	19
事務打合	85	142	病虫害豫防驅除督勵	25	59
農事講話及講習	49	150	計	328	1,059

第二 印刷物發刊ニ關スル事項

種別	部數	種別	部數
大正十一年度事業報告	300部	米採種圃耕種要録	1,500部
麥品種適否試験成績表	200枚	水稻品種適否試験成績表	300枚
優良農具ニ關スル調査	100部	施肥慣行調査表	1,500枚
使用ニ關スル注意	2,000枚	病虫害驅除法	3,000枚

第三 文書取扱件數

本年度ニ於テ取扱ヒシ文書5,251件ニシテ内譯次ノ如シ

本場	取受	發送
	3,326	1,925

第四 參觀人員

本年度ニ於ケル參觀人員次ノ如シ

本場	參觀人員
	5

第一編

第一章

第一節

第二章

第二節

第三章

第三節

第四章

第四節

佐渡分場之部

佐渡分場概況

佐渡分場ハ大正十二年度郡立佐渡農事試験場ヲ縣へ移管セルモノニシテ
試験地ハ水田一町一反歩畑七反歩ナリ、本年度ハ移管ト同時ニ圃場ノ位置
區劃變更等ニ付水田ハ插秧期迄ニ完成セルモ畑ハ完了セザリシタメ一部分
ノ試作ヲ行ヒタルニ過ギズ、今本年度施行セル試験ノ成績ヲ舉グレバ次ノ
如シ

田 之 部

第一 二毛作跡作水稻品種比較試験 (新設)

本試験ハ二毛作跡作トシテ水稻品種ノ適否ヲ試験シ二毛作ヲ獎勵スルト
共ニ水稻ノ収量ヲモ増加セントスルニアリ、二毛作トシテ紫雲英、大麥、
ザートウキツケン、ヲ供用スル豫定ナリシモ圃場整理ノタメ本年度ハ大麥
跡作ニ限り試験ヲ施行セリ、供試品種ハ大場、改良愛國、越前ノ三品種ニ
シテ成績ハ次ノ如シ

品 種 名	反 當 收 量	品 種 名	反 當 收 量
大 場	石 2,738	越 前	石 2,407
改 良 愛 國	2,629		

尙ホ本試験ニ二毛作跡及全採種跡作ニ對シテモ水稻品種ヲ増加シ試験セ
ントス

第二 紫雲英施用期試験 (新設)

本試験ハ紫雲英施用期ニヨリ水稻ノ収量ニ及ボス影響ヲ試験セントスル
ニアリテ供試品種ハ改良愛國ヲ用ヒ紫雲英ハ反當生草三百貫ヲ四月三十日
五月十日、五月二十日、五月三十日ノ四回ニ施用シ、插秧ハ五月三十日施
用區ハ六月二日、其他ハ五月二十七日ニ行ヘリ、本年度ノ試験成績ハ四月
三十日施用區三石三升八合ニシテ、次ハ五月二十日施用區、五月三十日施
用區、五月十日施用區ノ順位ナリキ更ニ試験ヲ繼續セントス

第三 越前系統試験 (新設)

越前種ハ佐渡ニ古ヨリ栽培セラレ現在數十種ノ變種ヲ見ツ、アリ、依ツ

テ之レガ系統ヲ調査シ純良ナルモノヲ見出し収量及品質ヲ改良セントス
本年度ノ供試品種ハ十五系統ニシテ最多三石三升二合ノ収量ヲ得タリ、
尙ホ繼續試験セントス

第四 春秋耕起試験 (新設)

本試験ハ秋耕、春耕ノ収量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルニアリテ供試品
種ハ越前種ニシテ試験區別並ニ成績ハ次ノ如シ

四寸平打	春秋	打	石
			2,336
四寸畦打	春秋	打	2,308
			2,552
六寸平打	春秋	打	2,251
			2,281
六寸畦打	春秋	打	2,562
			2,522
	春秋	打	2,724

第五 肥料割増試験 (新設)

本試験ハ品種ニ對シ肥料割増ヲ行ヒ其結果収量ニ及ボス關係ヲ知ラント
スルニアリテ供試品種ハ越前、龜ノ尾、新大場ニシテ肥料ハ標準區、二割
増區、四割増區、六割増區ヲ設ケ試験シタルニ越前ハ六割増區、龜ノ尾及
新大場ハ四割増區マデ収量漸次増加シタリ、尙ホ試験ヲ繼續セントス

第六 播種期播種量對移植期試験 (新設)

本試験ハ地方ニヨリ區々タルヲ以テ何レガ有利ナルヤヲ試験セントスル
ニアリテ供試品種ハ越前種ヲ用ヒ左記ノ試験ヲ行ヘタリ

四月十日播種	一合、二合、五合	移植期ハ五月二十日及五月三十日
四月二十日播種	一合、二合、五合	移植期ハ五月三十日及六月十日
四月三十日播種	一合、二合、五合	移植期ハ六月十日

本年度ノ成績ハ區々ニシテ一様ナラザレバ更ニ繼續試験セントス

第七 水稻品種試験 (新設)

本試験ハ各地ニ於テ優良品種ト認メラル、モノヲ蒐集シ何レガ地方ニ最
適スルヤヲ試験セントスルニアリ本年度ニ於ケル供試品種ハ四十四品種ニ
シテ優良ナルモノヲ擧グレバ

石白、新岩、大場、石白一八六號、新二本、自然雜種三六五號、愛國一四

號、畿内早稻一一號、石白一號、新石白

第八 除草回数試験 (新設)

本試験ハ勞力關係上除草回数ノ収量ニ如何ナル影響ヲ來スヤヲ試験セン
トスルニアリテ供試品種ハ越前種ニシテ五月三十日插秧セリ、試験區別次
ノ如シ

除草四回中耕一回	除草三回中耕一回
除草二回中耕一回	除草一回中耕一回
無除草區	

本年度ノ成績ニヨレバ除草回数少ナキニ從ヒ収量ヲ減ジタリ尙本試験ハ
除草ノ時期等ニ於テモ収量ノ差違大ナルモノ、如シ、依ツテ尙ホ繼續試験
セントス

第九 深淺耕起對肥料割増試験 (新設)

本試験ハ耕起ノ深淺ニ伴ヒ施肥ノ關係上如何ナル影響アルヤヲ試験セン
トスルニアリテ供試品種ハ越前、改良愛國ノ二種ヲ用ヘタリ、本年度ノ成
績ハ改良愛國ハ五寸耕六割増肥料、越前ハ六寸耕二割増肥料區最多収量ヲ
得タリ、尙ホ繼續試験セントス

第一〇 豊凶考照試験 (新設)

本試験ハ連年同一品種ヲ同一田地ニ同一耕種法ニヨリ栽培シ其年ノ豊凶
ヲ豫想スルニアリテ供試品種ハ早生越前、龜ノ尾、八八日、中生高田早稻、
大場、中生高宮、晩生毛石白、石白、愛國ノ九品種ニシテ本年度ニ於ケル
成績ハ次ノ如シ

早稻三種平均	2,299	晩生三種平均	2,638
中生三種平均	2,603		

畑 之 部

第一 蕎麥品種比較試験 (新設)

本試験ハ蕎麥ニアリテハ未ダ何レノ地方ニ於テモ之レニ關スル調査研究

-(62)-

セルモノ少ナク、畑作物トシテ山間地方ニ於テハ栽培者多キ作物ナレバ之レガ良品種ヲ見出サントスルニアリ、供試品種ハ秋蕎麥、夏蕎麥、白皮蕎麥及在來種ニシテ本年度ノ成績ニ依レバ最高三石一斗七升一合、最低一石一斗九升一合ノ収量ヲ得タリ、尙ホ本試験ハ品種ヲ多數蒐集シ繼續試験セントス

大正十四年四月十日印刷

大正十四年四月十五日發行

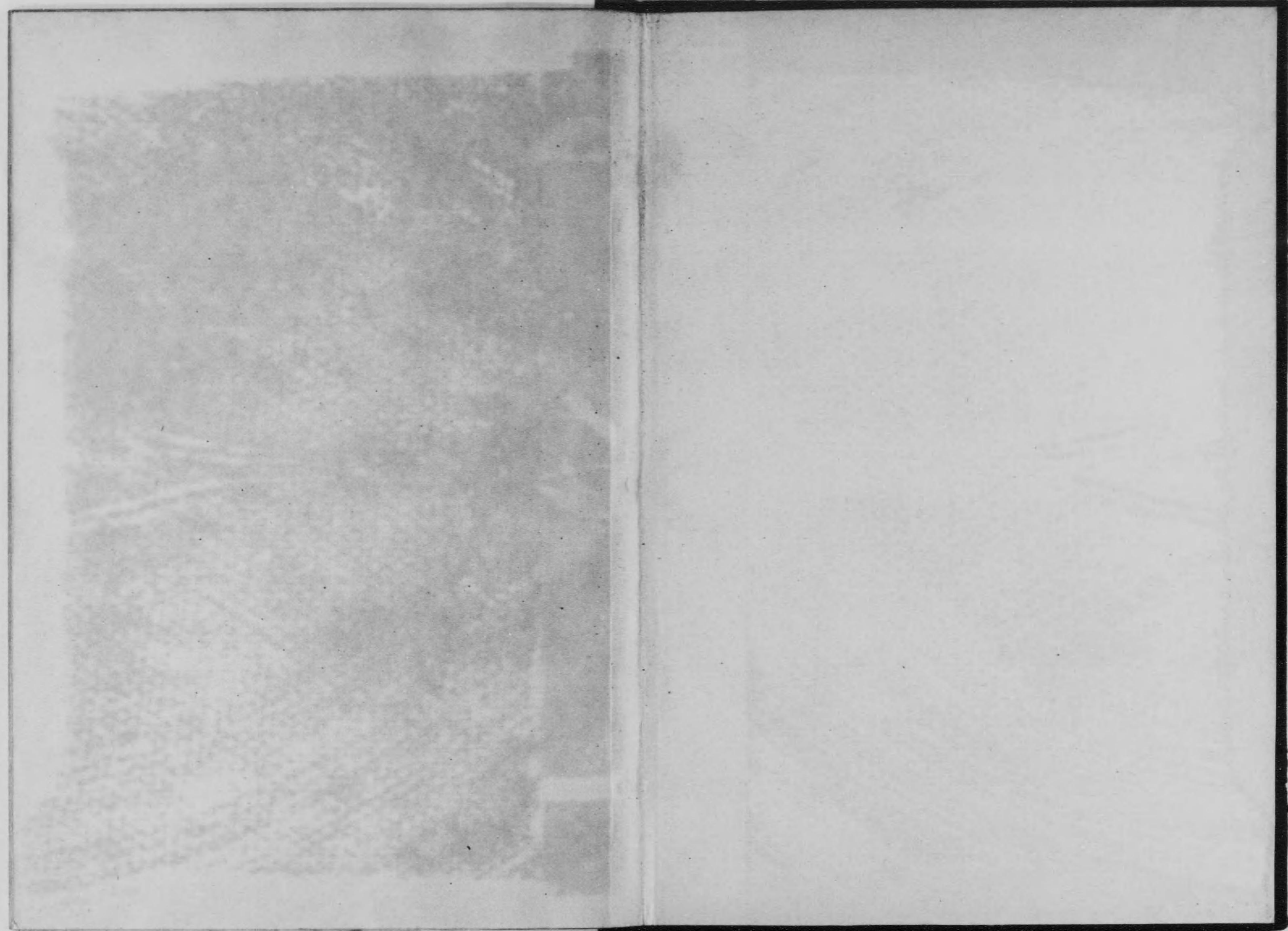
新潟縣農事試驗場

長岡市表町三丁目

印刷人 岩瀬直藏

長岡市坂上之町二丁目

印刷所 株式會社北越新報社



14.24

2814

終